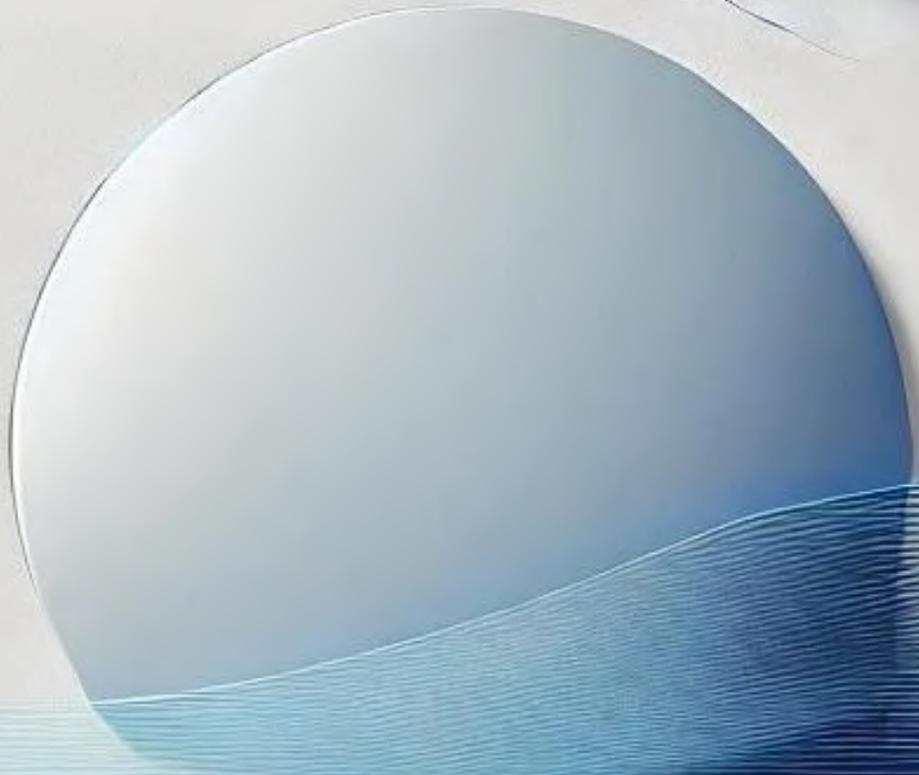




医療法法人協仁会

小松病院 年報



2023年度

## 2023年度年報 目次

理事長挨拶	病院管理課
総院長挨拶	地域医療連携室
概況	診療情報管理室
沿革	図書室
関連施設	医療安全管理部門
届出事項	院内感染防止委員会
内科	医療安全委員会
循環器内科	医療安全 SM 部会_
消化器内科	医療ガス安全管理委員会
糖尿病センター	学術・図書委員会
緩和ケア内科	用度委員会
外科_	褥瘡委員会
泌尿器科_	健康管理センター
小児科	-関連施設-
整形外科(最終確認)	クリニックこまつ
眼科	在宅医療室
耳鼻咽喉科(未完成)	松柏苑
歯科口腔外科	なごやか
看護部	第2なごやか
本院外来	第3なごやか
手術室_	訪問看護ステーション
3階病棟_	ケアプランセンター
4階病棟_	こまつデイサービス
5階病棟_	つくし保育課
6階病棟	-各種プロジェクト-
7階病棟_	自立支援介護推進プロジェクト
ひまわり病棟_	心不全高血圧プロジェクト_
放射線科	
臨床検査科	
薬剤科	
栄養科	
リハビリテーション科	
臨床工学科	

# 理事長挨拶

理事長 井谷敬治

急性期病院として同時に介護事業の展開において、寝屋川市のみならず北河内住民の皆様  
のニーズにお応えし、『患者・利用者起点』をモットーに職員一丸となって更なる信頼をい  
ただける組織醸成・確立に注力致します。そのためにも引き続き

1. 定性的目標を定量的手段にて成し遂げる。
2. ダイバシティ・マネジメントを前提としたチーム医療・介護で法人内連携強化を図る。
3. 特に医療事業・介護事業の連携を促進し住民の皆様へ肌理細やかなサービスを充実させ  
る。
4. 安定した医療・看護・介護を継続させる為の手段としての経営基盤を強化する。
5. 信頼に応えた医療・介護を展開し、結果として対外病院・施設との相互信頼・連携を強  
める。
6. 在宅医療・介護サービスをさらに拡充する。
7. 協仁会全体が市民の皆様へ愛される体質を醸成する。

以上を基本方針として厳しい環境下であればこそ、すべて正攻法（⇒医療・介護の精度向  
上）で対峙し、住民の皆様へのサービス提供を継続・発展させていきたいと思ひます。

# 総院長挨拶

総院長 一番ヶ瀬 明

地域の多くの皆様方には困難な中でも多大なご支援をいただき、誠にありがとうございます。遅まきながら2023年の年報をお届け致します。

2020年から続くコロナ感染は社会の様々な機能をマヒさせ、多くの市民の生活様式を制限してきました。

2023年はコロナとの闘いも新たなステージに入りましたが、社会全体になお不安定な状況が残る中での苦闘の続いた一年でありました。

この状況において、当院は引き続き地域のコロナ対策の中心としての急性期医療を続けるとともに、コロナ後を見据えた診療を各診療科が考えていく一年でもあったと言えます。

しかし地域の多数の高齢者はコロナ下で困惑を深め、なかんづく種々疾患を持ち不自由な生活を余儀されておられる方々はさらに増加してゆくものと考えられます。

この新たな事態に、予防から在宅介護まで法人全体の果たすべき責務は多岐にわたります。法人として過去以上に多部門多職種全体の協力連携のもとに、地域の多くの住民や施設とのより進んだかかわりが求められることになるでしょう。

さらなる高齢化が進む中、皆様方に様々なご支援ご指導をいただき、コロナ診療が中心であったものから、ようやく本来の医療に向き合って参ります。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

# 概況

(2023年3月31日現在)

名称	医療法人協仁会小松病院
所在地	寝屋川市川勝町11番6号
電話	072-823-1521(代表)
開設者	医療法人協仁会理事長 井谷敬治
管理者	一番ヶ瀬 明
診療科目	内科・呼吸器内科・消化器外科・消化器内科・循環器内科・アレルギー科・小児科・ 外科・整形外科・リウマチ科・眼科・皮膚科・泌尿器科・放射線科・耳鼻いんこう科・ リハビリテーション科・歯科・歯科口腔外科・麻酔科・神経内科・糖尿病内科・ 緩和ケア内科・精神科
診療時間	(月～金) 午前9:00～午後 7:30 (土) 午前9:00～午前11:30
許可病床数	190床(うち緩和ケア病床18床)
二次救急告示	内科・循環器内科 午前9:00～翌午前9:00(固定通年制) 小児科 第2・第3土曜日 午前9:00～翌午前9:00(病院群輪番制) 耳鼻咽喉科 毎金曜日 午前9:00～翌午前9:00(病院群輪番制)
許可・指定等	保険医療機関 労災保険・労災保険二次健診等給付・生活保護法・感染症法 自立支援法(育成医療)〈耳鼻咽喉科〉・ 身体障害者福祉法第15条指定医師(呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、 肢体不自由、心臓機能障害、聴覚障害・平衡機能障害及び音声機能又は言語機能障害)
第三者評価	(財)日本医療機能評価機構認定病院

## 厚生労働大臣の定める揭示事項

- ◆ 入院基本料について  
当院は「一般病棟入院基本料(急性期一般入院料4)」の届出を行っています。(日勤、夜勤あわせて)入院患者10人に対して1人以上の看護職員を配置しています。
- ◆ 入院診療計画、院内感染防止対策、医療安全管理体制及び褥瘡対策について  
当院では、入院の際に医師をはじめとする関係職員が共同して、患者さんに関する診療計画を策定し、7日以内に文書によりお渡ししています。また厚生労働大臣が定める院内感染防止対策、医療安全管理体制、褥瘡対策及び栄養管理体制の基準を満たしています。
- ◆ DPC対象病院について  
当院は入院医療費の算定にあたり、包括評価と出来高評価を組み合わせるDPC対象病院となっています。
- ◆ 明細書の発行状況について  
当院では、領収書の発行の際に、個別の診療報酬の算定項目の分かる明細書の交付を無料で行っています。
- ◆ 保険外負担に関する事項について  
〈保険外併用療養費に係る届出〉  
特別の療養環境の提供 入院期間が180日を越える入院 金属床による総義歯の提供 齦蝕に罹患している患者の指導管理  
当院では個室使用料、病衣使用料、紙おむつ代、証明書・診断書料などにつきまして、その利用日数、使用量、利用回数に応じた実費のご負担をお願いしています。料金につきましては別掲の表をご覧ください。

## 沿革

昭和 38 年 11 月	診療所開設（病床 12 床、職員 6 人）
昭和 39 年 2 月	生活と健康を守る会発足
昭和 42 年 1 月	医療法人協仁会として法人設立
昭和 42 年 5 月	心臓病を守る会発足、4 人の子供の手術に成功。 心臓病友の会（患者会）発足
昭和 43 年 11 月	病院として発足（ベッド 37 床）
昭和 48 年 5 月	病気あけ保育所「つくし」の協力管理医に
昭和 50 年 3 月	「かわち市民生協」設立に取り組む
昭和 52 年 8 月	新病院に移転（114 床）
昭和 57 年 4 月	保健大学開校、健康教室の開催
昭和 59 年 12 月	日曜診療（内科）開設
昭和 60 年 1 月	「社員制度」発足
平成 4 年 1 月	理学療法認可される
平成 5 年 11 月	創立 30 周年「市民のための病院づくり」刊行
平成 8 年 6 月	ヘリカル CT、尿管結石破砕機導入
平成 8 年 6 月	「患者権利宣言」を社員総会で採択
平成 8 年 11 月	老人保健施設「松柏苑」開設
平成 10 年 2 月	訪問看護ステーション「こまつ」開設
平成 13 年 6 月	MRI 導入
平成 13 年 8 月	グループホーム「なごやか」開設
平成 15 年 3 月	電子カルテ導入
平成 15 年 3 月	杏結核医療資料館 TV 放映（読売テレビ）
平成 15 年 5 月	マルチスライス CT 導入
平成 15 年 7 月	外来電子カルテ導入
平成 15 年 11 月	小松病院 40 周年記念公演開催
平成 15 年 12 月	クリニックこまつ開院
平成 16 年 7 月	乳腺外来、マンモグラフィー開始
平成 16 年 8 月	こまつデイサービスセンター開所
平成 16 年 10 月	小松良夫先代理事長ご逝去
平成 17 年 1 月	堀内弘雄理事長就任
平成 17 年 5 月	日本医療機能評価機構認定書交付される（ver.4）
平成 17 年 8 月	こまつケアプランセンター開設
平成 18 年 3 月	心臓カテーテル治療開始（アンギオ装置導入）

平成 18 年 3 月	グループホーム「第 2 なごやか」開設
平成 18 年 4 月	ホスピス（緩和）ケア病棟「ひまわり」開設
平成 18 年 9 月	病児保育所「つくし」開設
平成 19 年 6 月	緩和ケア病棟ひまわり「コスモスの会（遺族会）」開催
平成 19 年 10 月	高齢者専用賃貸住宅「曙光」開設
平成 20 年 3 月	マンモグラフィ検診認定施設取得
平成 20 年 4 月	DPC 導入
平成 20 年 10 月	医) 協仁会 総院長 一番ヶ瀬 明 小松病院 院長 原田 佳明 就任
平成 21 年 1 月	最新鋭 64 列マルチスライス CT 装置導入
平成 21 年 9 月	病院機能評価 ver.5 更新
平成 21 年 10 月	没後 5 周年 先代理事長小松良夫先生を語る会 開催
平成 22 年 3 月	最新型 FPD デジタル式 X 線透視診断装置導入
平成 22 年 4 月	放射線画像のフィルムレス化運用開始
平成 22 年 8 月	こまつデイサービスセンター秦町に移転
平成 25 年 8 月	小松病院 新病院竣工
平成 26 年 1 月	日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定証 交付
平成 26 年 9 月	病院機能評価 一般病院 2 <3rdG:Ver.1.0>更新
平成 27 年 10 月	小松病院 院長 齊藤 幸人 就任
平成 29 年 10 月	堀内 弘雄 協仁会会長就任
平成 29 年 10 月	井谷 敬治 協仁会理事長就任
平成 30 年 10 月	神畠 宏 小松病院院長代行、クリニックこまつ院長就任
平成 30 年 11 月	最新鋭 GE 社製 CT 装置導入
令和 元年 5 月	総合支援センター（医療・看護・介護・歯科相談）開設
令和 2 年 5 月	発熱・感冒センター スタート
令和 2 年 6 月	自動 PCR 検査装置 1 号機（4 検体 75 分）導入
令和 2 年 8 月	寝屋川市 地域外来・検査センター受託
令和 2 年 11 月	大阪府新型コロナウイルス診療検査医療機関 指定
令和 2 年 12 月	自動 PCR 検査装置 2 号機（4 検体 120 分）導入
令和 3 年 2 月	大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機関 5 床 指定
令和 3 年 3 月	新型コロナウイルス感染症 入院受入開始
令和 3 年 7 月	大阪府新型コロナウイルス感染症中等症重症一体型病院 10 床 指定
令和 3 年 7 月	自動 PCR 検査装置 3 号機（12 検体 30 分）導入
令和 3 年 10 月	内視鏡カメラ室（医療・健診）2 列化運用開始
令和 4 年 4 月	心不全・高血圧プロジェクト スタート
令和 4 年 11 月	小松病院 寝屋川市災害医療センター 指定

## 協仁会グループ 関連施設

医療法人 協仁会 **小松病院** 日本医療機能評価機構認定病院  
厚生労働省告示DPC対象病院  
〒572-8567 大阪府寝屋川市川勝町11番6号 TEL：(072)823-1521～3 FAX：(072)823-1588

医療法人 協仁会 **クリニックこまつ** 日本医療機能評価機構認定病院  
〒572-8567 大阪府寝屋川市川勝町11番1号 TEL：(072)823-1522 FAX：(072)823-1861

介護老人保健施設 **松柏苑**  
〒572-8567 大阪府寝屋川市川勝町11番27号 TEL：(072)823-1721 FAX：(072)823-2122

グループホーム **なごやか** 介護保険指定（認知症対応型共同生活介護施設）  
〒572-8567 大阪府寝屋川市川勝町11番27号 TEL：(072)823-7667 FAX：(072)823-7665

グループホーム **第2なごやか** 介護保険指定（認知症対応型共同生活介護施設）  
〒572-0050 大阪府寝屋川市黒原城内町25-7 TEL：(072)801-5200 FAX：(072)801-5201

グループホーム **第3なごやか** 介護保険指定（認知症対応型共同生活介護施設）  
〒575-0021 四條畷市南野2丁目1番24号 TEL：072-863-2660 FAX：072-863-2661

**こまつデイサービスセンター**  
〒572-0848 大阪府寝屋川市秦町3番8号 TEL：(072)823-5110 FAX：(072)823-5261

**こまつケアプランセンター**  
〒572-8567 大阪府寝屋川市川勝町11番6号 TEL：(072)823-1531 FAX：(072)823-1636

訪問看護ステーション **こまつ**  
〒572-0015 大阪府寝屋川市川勝町9番1号 TEL：(072)823-7577 FAX：(072)823-3323

病児保育所 **つくし**  
〒572-8567 寝屋川市川勝町9番1号 TEL・FAX：(072)823-1621

ホスピス(緩和)ケア病棟 **ひまわり**  
〒572-8567 大阪府寝屋川市川勝町11-6 TEL：(072)823-1521 FAX：(072)821-7013

## (I) 厚生労働省の定める施設基準等の届出事項

### 指定関係

保険医療機関

### 指定病院

労災保険・労災保険二次健診等給付・生活保護法・感染症法

自立支援法（育成医療）〈耳鼻咽喉科〉・

身体障害者福祉法第 15 条指定医師（呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、

肢体不自由、心臓機能障害、聴覚障害・平衡機能障害及び音声機能又は言語機能障害）

### 許可病床数

190 床（一般病棟 172 床、緩和ケア病棟 18 床）

### 第三者評価

（財）日本医療機能評価機構認定病院

### 基本診療料の

### 施設基準等に係る届出

#### ①基本診療料の施設基準等に係る届出

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算 2 歯科診療特別対応連携加算  
一般病棟入院基本料急性期一般入院料 4 救急医療管理加算 診療録管理体制加算 2 医師事務  
作業補助体制加算 20 対 1 補助体制加算 25 対 1 急性期看護補助体制加算 夜間 100 対 1  
急性期看護補助体制加算 療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 緩和ケア診療加算 栄養  
サポートチーム加算 医療安全対策加算 2 医療安全対策地域連携加算 2 感染防止対策加算 2  
後発医薬品使用体制加算 1 病棟薬剤業務実施加算 1 データ提出加算 2 〇 入退院支援加算 2  
認知症ケア加算 3 せん妄ハイリスク患者ケア加算 地域歯科診療支援病院入院加算 小児入院  
医療管理料 4 緩和ケア病棟入院料 1 看護職員処遇改善加算 3 6

#### ②特掲診療料の施設基準に係る届出

がん性疼痛緩和指導管理料 外来緩和ケア管理料 二次性骨折予防継続管理料 1 二次性骨折予防  
継続管理料 3 地域連携小児夜間・休日診療料 1 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に規定する  
救急搬送看護体制加算 がん治療連携指導料 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料 1 歯科治療  
時医療管理料 歯科疾患在宅療養管理料の注 4 に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治  
療時医療管理料 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に規定する遠隔モニタリング加算 持続  
血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式  
グルコース測定 BRCA 1 / 2 遺伝子検査 検体検査管理加算（I） 検体検査管理加算（II） 小

児食物アレルギー負荷検査 画像診断管理加算2 CT撮影及びMRI撮影 冠動脈CT撮影加算  
心臓MRI撮影加算 小児鎮静下MRI撮影加算 無菌製剤処理料 脳血管疾患等リハビリテーシ  
ョン料(Ⅱ) 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 歯科口腔  
リハビリテーション料2 導入期加算1 CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー 喉頭形  
成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの) 経皮的中心隔心筋焼灼術 ペースメーカー移植術及びペ  
ースメーカー交換術 大動脈バルーンパンピング法(ⅠABP法) 体外衝撃波胆石破碎術 体外衝  
撃波膀胱石破碎術 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に  
掲げる手術 輸血管理料Ⅱ 人工肛門・人工膀胱造設前処置加算 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 広  
範囲顎骨支持型装置埋入手術 麻酔管理料(Ⅰ) 歯科麻酔管理料 クラウン・ブリッジ維持管理料  
薬剤料が175円以下の場合は薬剤名等の記載を省略 酸素の購入価格

## 入院時食事療養(Ⅰ)

を算定すべき食事療養

の基準に係る届出

当院は、入院時食事療養に関する特別管理による食事の提供を行っており、療養のための食事は管理栄養士の管理の下に、適時(夕食については午後6時以降)、適温で提供しています。またあらかじめ定められた日に、患者さんに対して提示する複数のメニューから、お好みの食事を選択できる「選択メニュー」を実施しています。

※当院は上記に適合している旨を、近畿厚生局長に届け出ている保険医療機関です。

---

## (Ⅱ) 室料差額に関する事項

---

### 一般病棟・室料差額代

個室

1日：13,608円(301・302・303・305・306・401・402・403・405・  
406・501・502・503・505・506・601・602・603・605・606・701・  
702・703・705・706・ひまわり1・  
ひまわり2・ひまわり3号室)

個室

1日：11,448円(307・407・507・607・708・ひまわり5・ひまわり6・ひまわり7・  
ひまわり8・ひまわり10号室)

準個室(2人部屋)

4,968 円 (710 号室)

---

準個室 (4 人部屋)

1 日 : 3,672 円 (311・312・318・411・412・417・511・512・518・  
610・611・  
711・712 号室)

---

---

### (Ⅲ) 食事に関する事項

---

入院時食事療養 (I)

---

---

### (Ⅳ) 在宅医療

---

訪問診療・看護・リハビリテーション、薬剤栄養指導、歯科診療、在宅ホスピスケア

---

---

### (Ⅴ) 主な検査・レントゲン・手術に関する事項

---

腹部・心臓エコー、胃・大腸レントゲン検査、脳波、眼底カメラ、特殊治療 (体外衝撃波腎・尿管結石破碎・腹腔鏡下胆嚢摘出)、白内障眼内レンズ装置、MRI (磁気画像診断装置) 胃・大腸電子スコープ、血管造影、骨量測定、マルチスライス CT、麻酔管理医師による手術 (外・泌・整・口腔・眼・耳等)

---

---

### (Ⅵ) その他の病院案内

---

- 研修病院 (泌尿器科・眼科・歯科口腔外科・循環器科)
- 実習病院 (学生…医師・看護師・理学療法士・薬剤師・歯科衛生士)
- 栄養相談 (入院・外来)
- 人間ドック
- 事業所集団検診

# 内 科

## 1) 概要

地域に根ざした病院内科としてチーム医療を基本とし、各医師の専門性を活かしながら、全ての常勤医が総合的に対応できるよう努めています。疾患によっては専門外来の先生と相談して、専門施設へ紹介しております。

## 2) スタッフ

一番ヶ瀬 明  
役 職  
専門分野  
出身校  
資 格

小松病院 総院長  
循環器  
関西医科大学医学部卒業  
医学博士 日本内科学会認定医

甲斐 香  
役 職  
専門分野  
出身校  
資 格

クリニックこまつ所長  
内科  
川崎医科大学卒業  
医師会認定産業医 心臓リハビリテーション指導士

竹内 正春  
役 職  
専門分野  
出身校  
資 格

副院長  
内科・循環器  
関西医科大学医学部卒業  
産業医

酢谷 保夫  
役 職  
専門分野  
出身校  
資 格

副院長  
総合内科・循環器  
関西医科大学卒業  
日本内科学会認定内科医 総合内科専門医 循環器専門医  
日本心血管インターベンション治療学会認定医 日本病院総合診療医学会認定医

森谷 信介  
役 職  
専門分野  
出身校  
資 格

副部長  
総合内科・循環器  
関西医科大学卒業  
日本内科学会認定内科医 総合内科専門医

大瀬 裕之  
 役 職  
 専門分野  
 出身校  
 資 格

内科副部長  
 内科・糖尿病  
 滋賀医科大学医学部卒業  
 医学博士 日本内科学会認定医 日本糖尿病学会専門医

3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月 医療統計より)

術式	件数
入院患者件数	40497
外来患者件数	80167

各専門分野の実績は各専門分野を参照

4) 教育・研修

〈研究活動〉

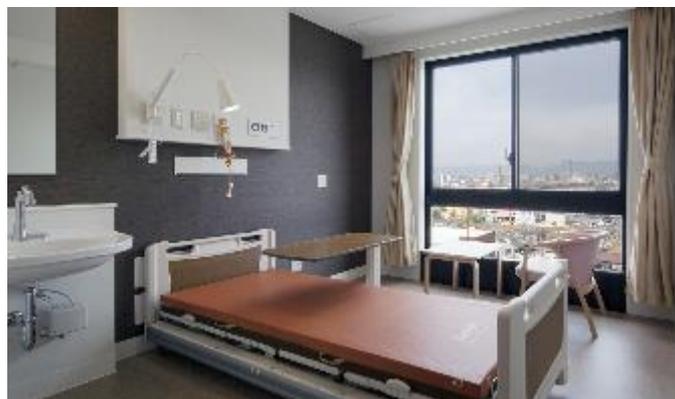
各専門領域の学術講演会参加・発表

〈院内勉強会〉

各専門領域でコメディカルを含めた症例検討会、講義

5) 次年度の課題・目標

- ・ 疾病の治療のみならず、患者教育と予防医療
- ・ 専門領域に捕らわれない、総合的な診療



## 循環器内科

### 1) 概要

狭心症・心筋梗塞・うっ血性心不全・不整脈・高血圧性心疾患・弁膜症・心筋疾患・心膜疾患など心疾患と、大動脈瘤などの大動脈疾患・下肢閉塞性動脈硬化症や腎血管性高血圧等の末梢動脈疾患・深部静脈血栓症や肺血栓塞栓等の静脈系疾患などの血管系疾患を診療対象(下肢静脈瘤は対象外)としています

検査としては、心電図(安静時・運動負荷・24時間・1週間)、ABI(Ankle Brachial Index:上肢と下肢の血圧の比を見る検査)、心臓超音波、頸動脈エコー、腎動脈エコー、下肢動脈エコー、下肢静脈エコー、単純CT、造影CT(冠動脈CT・大血管CT・腎動脈CT・下肢動脈CT・肺動脈および下肢静脈CT)、心臓MRI、頭頸部MRI・MRA、大血管MRA、下肢動脈MRA、腎動脈MRAなどが、外来で施行可能です

入院では、右心カテーテル検査・冠動脈造影、下肢動脈造影・鎖骨下動脈造影、大動脈造影、左心室造影、FFR(冠血流予備量比)、EPS(心臓電気生理学検査)などの検査が行えます

当科の特徴として内服や点滴以外の治療として、血管内治療やペースメーカー植え込み術等の治療があります。主に局所麻酔や静脈麻酔を使用して、血管を穿刺したり、皮膚を小切開したりして、治療を行います

狭心症や心筋梗塞に対するPCI(経皮的冠動脈インターベンション)、下肢閉塞性動脈硬化症・腎動脈狭窄・鎖骨下動脈狭窄(閉塞)に対するEVT(血管内治療、PTA:経皮的血管形成術ともいわれます)、徐脈性不整脈に対する恒久的ペースメーカー植え込み術、頻脈性不整脈に対する高周波カテーテルアブレーション、深部静脈血栓症に対するIVC(下大静脈) filter留置などが実施できます

### 2) スタッフ

クリニックこまつ院長代行	神畠 宏
部長	奥村 啓之
医長	三栗 樹子
医長	林 大樹

## 3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月 保険算定件数より算出)

術式	件数
経皮的冠動脈ステント留置術 (その他のもの)	72
経皮的カテーテル心筋焼灼術 (心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの)	37
四肢の血管拡張術・血栓除去術	27
ペースメーカー移植術 (経静脈電極の場合)	25
経皮的冠動脈形成術 (その他のもの)	24
経皮的冠動脈ステント留置術 (急性心筋梗塞に対するもの)	14
経皮的冠動脈ステント留置術 (不安定狭心症に対するもの)	10
経皮的カテーテル心筋焼灼術 (その他のもの)	6
体外ペースメーカーキック術	6
経皮的冠動脈形成術 (不安定狭心症)	5
その他	5

## 4) 教育・研修

## &lt;施設&gt;

当院は、日本循環器病学会の研修関連施設です

## &lt;論文&gt;

Retrograde percutaneous coronary intervention for acute myocardial infarction following blunt chest trauma.

Hiroyuki Okumura et.al Catheter Cardiovasc Interv. 2018;1-4

## &lt;学会&gt;

日本循環器学会・CVIT・内科学会総会に毎年参加し、常に新しい情報を得るように心がけています

## &lt;Live&gt;

KCJL・CCT等のカテーテル治療に関する live demonstration に参加し、最新の治療法や考え方を得るようにしています

## &lt;研究会&gt;

薬剤に関連した研究会で座長や演者として参加し、新しい薬剤の可能性や効果について情報交換しています

## 5) 次年度の課題・目標

- ・ 毎年の目標である安心・安全の医療を継続して提供します
- ・ シームレスな医療を提供します
- ・ 安全で質の高いテーラーメイド医療をめざします
- ・ 医師およびスタッフ一同、丁寧な言葉でしっかり説明するよう心がけます

# 消化器内科

## 1) 概要

内視鏡検査・治療、肝炎（B型、C型）、様々な消化器系の治療を行っています。今後も消化器内科の果たす分野は拡大が予想され、症例数の増加が見込まれます。常勤3人、地域のニーズに対応して努力していく所存です。

## 2) スタッフ

副院長 山崎 秀司  
部長 八上 佳和

## 3) 診療実績（2023年4月～2024年3月 保険算定件数より算出）

手技	件数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	91
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみ）	20
内視鏡的胆道ステント留置術	17
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	12
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm以上）	10
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	6
下部消化管ステント留置術	5
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍胃粘膜）	5
内視鏡的胆道結石除去術（その他）	5
内視鏡的乳頭切開術（胆道碎石術を伴う）	5
経皮的胆管ドレナージ術	3
内視鏡的消化管止血術	3
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	2
内視鏡的膵管ステント留置術	2
その他	6

## 4) 教育・研修

第 120 回 日本内科学会総会・講演会

第 105 回 日本消化器内視鏡学会総会

第 240 回 日本内科学会近畿地方会

第 111 回 日本消化器内視鏡学会近畿支部例会

第 031 回 日本消化器関連学会週間(JDDW2023)

Asian Pacific Digestive Week 2023(APDW2023)

第 120 回 日本消化器学会 近畿支部例会 第 052 回 日本消化器内視鏡学会 重点卒後教育セミナー

第 105 回 日本消化器内視鏡学会総会

第 045 回 日本消化器内視鏡学会近畿セミナー

##### 5) 次年度の課題・目標



## 糖尿病センター

### 1) 概要

当センターでは、2型糖尿病をはじめ、あらゆる病態の糖尿病患者様を対象に糖尿病診療を行っています。糖尿病治療の目標は、合併症の発症・進行を予防し健康寿命を確保することであり、血糖管理に加え、血圧・脂質・体重管理を実施しています。また、日本人の死因第1位であるがんの早期発見のため超音波検査、内視鏡検査、CT検査なども積極的にを行っています。

外来患者数は年々増えており、現在ではおよそ3000名の患者様が定期通院されています。院外からの患者様も多く、北河内では最大規模の糖尿病センターです。他の医療機関との連携（紹介病院・医院からの紹介、高度医療機関への紹介）も充実しています。

当センターではきめ細やかなチーム医療を心がけており、栄養士による食事療法の指導、看護師・薬剤師による療養指導、薬剤指導やフットケアなどを行っています。また、院内の循環器内科、腎臓内科、眼科、皮膚科などと密に連携することで急性・慢性合併症の治療を迅速に行っています。

コロナ禍で中断していた糖尿病患者会の活動、外来糖尿病教室、教育入院プログラムなどを再開しています。

### 2) スタッフ（糖尿病センター外来）

クリニックこまつ所長代行（糖尿病センター長） 栗岡 聡一、部長 五十嵐 美晴  
副部長 大谷 はづき、医員 高原 里永子、医員 福間 博和、医員 高島 大幸  
医員 上野 裕美子、非常勤医師 柴崎 早枝子、非常勤医師 杉山 宏  
看護師 4名  
薬剤師 1名  
クラーク 2名

## 3) 診療実績（令和5年4月1日～6年3月31日 保険算定件数より算出）

手技	件数
外来患者数	3073
入院患者数	109
紹介患者数（院外）	120
フットケア外来	222

## 4) 教育・研修・教育

日本糖尿病学会認定教育施設 I

<研究・学会活動>

大谷はづき、他 腎機能低下2型糖尿病患者におけるルセオグリフロジン投与後のHb・Htへの影響. 第60回日本糖尿病学会近畿地方会 2023年

大谷はづき、他 高中性脂肪血症による急性膵炎を合併した糖尿病性ケトアシドーシスの1例. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会 2024年

## 5) 次年度の課題・目標

- ・最新のエビデンスに基づく良質な医療を提供する
- ・安全で質の高いテーラーメイド治療を行う
- ・丁寧な説明を心がける

## 緩和ケア内科

### 1) 概要

緩和ケア科で関わる患者様は手術療法、化学療法、放射線治療等をすでに終了されている方が大半を占めています。患者様・ご家族は、これからどのように残された時間を過ごしていけばいいか戸惑いや不安を感じておられます。このような心の悩みや、がん特有の症状（痛み・倦怠感・食欲不振等）を緩和し一日一日を心やすらかに過ごしどんなに辛くてもその後には笑顔でお別れができることを目標としています。

#### （特徴）

- ・ 開設 19 年の蓄積されたノウハウがあります
- ・ 通院・訪問診療（寝屋川市内及び隣接地の一部の地域）・緩和ケア病棟を利用しながら過ごしたい場所で専門的緩和ケアが受けられます

#### （その他）

入院中は管理栄養士による希望食が週に 1 回あります。その他、ドックセラピー、アロマセラピー、ティザーブなど院外の方にも来ていただき共にサポートさせていただいております。また大切な家族の一員としてペットとの面会も可能となっております。

### 2) スタッフ（チームひまわり）

医師：河嶋 亨（副院長）・村松 美樹子（部長）・伴 敏信（副部長）

ひまわり病棟：看護師 13 名（内 1 名は緩和ケア認定看護師）・看護助手 3 名

コメディカルスタッフ：臨床心理士及び公認心理師 1 名・社会福祉士 2 名・理学療法士（兼務）・言語聴覚（兼務）・薬剤師（兼務）・管理栄養士（兼務）



### 3) 診療実績（令和5年4月～令和6年3月）

データ	件数
緩和ケア科登録患者数（令和6年3月31日現在）	264人
緩和ケア科新規登録患者数	374人
令和5年度新規登録患者様住所地 寝屋川市	213人
隣接市（四条畷・交野・枚方・大東・守口・門真）	148人
その他の地域	13人
ひまわり病棟入院患者数	325人
ひまわり病棟退院患者数	327人
ひまわり病棟自宅又は施設への退院患者数	66人
ひまわり病棟お看取り人数	248人
在宅緩和お看取り人数	96人
平均在院日数	18.6日

### 4) 教育・研修・教育

- ・日本緩和医療学会臨床研修施設指導医が在席しております
- ・日本ホスピス協会の定める「緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認定制度」に係る認定基準を満たしております

### 5) 次年度の課題・目標

- ・院外の関係機関と連携しながら必要なタイミングで緩和ケアを利用していただけるようにいたします
- ・院内関係部門がチームで患者様、ご家族等を支援させていただけるよう院内スタッフ間の連携を行います
- ・入院病棟につきましては、感染症対策による面会制限が緩和されご家族とのコミュニケーションをとる機会が増えました。患者様、ご家族が安心して心豊かな終末期医療を当院で受けただけできるよう支援させていただきます。



# 外科

## 1) 概要

北河内地域に根ざした医療機関として、当科は消化器外科を中心に、常勤医 2 名と非常勤医により外来診療と入院治療を行っております。日常の擦り傷などの外傷から鼠径ヘルニア、痔疾患、虫垂炎や胆石症などの良性疾患そして消化管や肝臓、膵臓などの消化器悪性疾患（消化器癌）にいたるまで比較的幅広い疾患を扱っています。

消化器疾患の手術に関しては従来の開腹手術はもちろんのことながら、患者様に負担の少ない腹腔鏡手術にも力を入れており、体に優しく質の高い治療を提供できるよう心がけております。



## 2) スタッフ

外科 統括部長  
消化器外科部長

西尾 和司  
植田 史朗

## 3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月 保険算定件数より算出)

術式	件数
腹腔鏡下胆嚢摘出術、胆嚢摘出術	38
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 (両側)	23
鼠径ヘルニア手術、ヘルニア手術	23
腹腔鏡下虫垂切除術	14
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	10
腹腔鏡下直腸切除・切断術	10
痔核手術	8
腹腔鏡下人工肛門造設術、人工肛門閉鎖術	7
結腸切除術	5
腹腔鏡下胃切除術 (悪性腫瘍手術)、胃切除術 (悪性腫瘍手術)	5
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置 (頭頸部その他)	4
創傷処理 (筋肉、臓器に達しない) (長径5cm未満)	4
肝切除術	3
小腸切除術 (その他のもの)	3
内視鏡的胆道ステント留置術	3
その他	31

## 4) 教育・研修

小松病院・外科は日本外科学会・外科専門医制度関連病院、日本消化器外科学会・専門医制度規則指定修練施設 (関連施設) に認定されています。日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医などを取得し、それらの学会参加や認定更新を通じて研修を受けています。

## 5) 次年度の課題・目標

胃癌や大腸がんのガイドラインに準じた治療を目標としています。

# 泌尿器科

## 1) 概要

当院の泌尿器科は、泌尿器系の疾患や問題に特化した診療科です。泌尿器科は、腎臓、尿路、膀胱、尿道、男性の性器などに関連する疾患に対して専門的な診断と治療を提供します。私たちの泌尿器科チームは、経験豊富な泌尿器科医と看護師などの医療スタッフが協働し、以下のような症状や疾患に対して診療を行っています。

- ・ 尿路感染症、膀胱炎、尿道炎などの泌尿器感染症
- ・ 腎臓結石、尿路結石の治療と予防
- ・ 前立腺疾患、前立腺肥大症、前立腺がんなど
- ・ 性機能障害、性感染症など
- ・ 尿失禁、排尿障害、尿路異常など
- ・ 泌尿器系のがん、腎臓がん、膀胱がん、尿道がんなど

泌尿器科では、患者さんの症状や病歴を詳しくお伺いし、必要に応じて検査を行います。尿検査、超音波検査、内視鏡検査、生検などを使用して、正確な診断を行います。治療には、薬物療法、尿路結石の破砕、前立腺手術、がん治療などが含まれます。また、生活習慣の改善や予防策についてもアドバイスを提供します。



## 2) スタッフ 常勤医師 2名

岩崎 明

真殿 佳吾

## 3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月 保険算定件数より算出)

手技	件数
経尿道的尿管ステント留置術	99
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	57
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	52
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	52
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	19
経尿道的前立腺核出術	16
経尿道的尿管狭窄拡張術	15
膀胱結石摘出術（経尿道的手術）	13
包茎手術（環状切除術）	10
経尿道的電気凝固術	9
陰嚢水腫手術（その他）	6
経尿道的尿路結石除去術（その他のもの）	6
尿道狭窄内視鏡手術	6
その他	20

## 4) 教育・研修

第 110 回 日本泌尿器科学会総会

## 5) 次年度の課題・目標

## 小児科

### 1) 概要

寝屋川市および周辺地域における、小児の入院施設を持つ中規模病院として、原則としてすべての小児疾患に対応しています。平日午前9時～11時半、午後6時～7時半には発熱患者を含むすべての疾患に対応しています。また土日祝も午前9時～11時半まで外来診療をしております。また頭部打撲や軽度の熱傷、擦り傷などの軽度の外科的疾患に関しても多くは診療可能ですので、まずご連絡ください。

救急車対応は平日午前8時半から午後7時半（木曜日のみ午後6時まで）受け入れており、週末は土曜午前9時から日曜11時半まで受け入れ可能です。

当院の特徴として、食事アレルギーの日帰り入院での付加試験を行っております。卵や牛乳その他のアレルギーがあり、食事の管理が大変なお子さんに対しても、医師の管理下のもとで負荷試験を行っております。また脳波検査やMRIなどの検査も日帰り入院で施行しております。

入院の際は幼少時であれば原則として保護者に付き添っていただいておりますが、兄弟の面倒が見られないような場合では、兄弟も同時に入院していただくなどの対応可能です。

また病児保育施設（病児保育所つくし）を併設しておりますので、入院の適応はなくても病気で登園、登校できないお子さんをお預かりできます（料金：寝屋川市在住2000円、その他地域在住6000円）。

### 2) スタッフ

部長	林 振作
	武輪 鈴子
	原田 佳明
	中村 眞紀子

## 3) 入院診療実績（令和5年4月～令和6年3月 症例数上位のみ）

手技	件数
アレルギー負荷試験	232
肺炎、気管支炎（RSV、hMPV感染含む）	109
胃腸炎（ノロウイルス、ロタウイルス感染含む）	23
扁桃炎（溶連菌、アデノウイルス感染含む）	19
てんかん、熱性けいれん	15
気管支喘息、喘息性気管支炎	14
インフルエンザ	12
川崎病	8

## 4) 教育・研修

## ＜研究活動＞

論文：林振作ほか：偽性 Bartter 症候群を呈した腸回転異常症の 1 例. 小児科 2023 ;  
64 : 938-941

学会発表：①武輪鈴子：牛乳と交差抗原性を示した Pork-cat の 1 例（第 72 回日本アレルギー学会学術大会）

②原田佳明：不登校や体調不良を主訴とする学童・学生へのヘッドアップチルト試験, DSM-5, WISC-IVの実施（第 73 回小児神経学会近畿地方会）

## ＜教育活動＞

院内勉強会：林振作：小児科の特性と地域医療への取り組み

小児科勉強会：毎月第 4 金曜日開催。医師、薬剤師、栄養師などが担当しています。

関西医科大学医学生の臨床研修受け入れ（1回生、6回生）

## 5) 次年度の課題・目標

- ・地域のニーズにあった質の高い医療の提供
- ・積極的な論文投稿、学会報告
- ・起立性調節障害に対する入院精査加療

# 整形外科

## 1) 概要

当院の整形外科は、北河内地域に根差した医療機関として診療を行っております。超高齢化社会になって著明に増加している骨粗鬆症に対しては、「カルシウム外来」の伝統で詳しく骨密度評価可能な腰椎・大腿骨DXA装置を約30年前から設置しております。DXA装置も更新して最新の評価が行えるようにしております。

地域のクリニックと当院地域連携室を通じて、直接患者さまの紹介・逆紹介をし、連携しております。

経験豊富なリハビリスタッフと共に早期回復に取り組んでおります。自宅退院を目指す長期入院が必要な患者さまに対しては、令和6年度から開設した包括ケア病棟に引き続き入院していただくことで対応しております。

関西医科大学付属病院と緊密な連携体制をとっております：2024年4月から 関西医科大学付属病院整形外科より整形外科専門医が派遣され、当院での手術すべてを担当していただいております。

## 2) スタッフ 常勤医師2名

板倉 良友（松柏苑管理医師兼任）

西田 俊晴

### 非常勤医師6名

政田 亘平（水曜日手術・脊椎専門外来担当）

小野 直登（木曜日手術・脊椎専門外来担当）

河合 利俊（火曜日外来 股関節専門）

森田 修蔵（水曜日外来 肩関節専門）

曲直部 竜太（木曜日外来）

藤原 正富（金曜日外来）

看護師 日替わりで2名

クラーク 日替わりで1名

3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月 保険算定件数より算出)

手技	件数
外来患者数	9065
外来紹介数	252
入院患者数	
入院紹介数	

4) 教育・研修

日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リウマチ学会認定医、日本リウマチ財団登録医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、義肢装具等適合判定医師研修会修了、「下肢創傷処置・管理のための講習会」受講

日本整形外科学館専門医・研修指導医・臨床研修指導医・日本脊椎脊髄病専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定リハビリテーション医、JATEC コース修了「下肢創傷処置・管理のための講習会」受講

5) 次年度の課題・目標

各専門領域ともホームドクターと綿密に連携をとり、地域医療の発展に取り組んでゆく。関西医科大学整形外科医師とのカンファレンスを通じて、日進月歩の整形外科医療の知識・技量を向上していく。

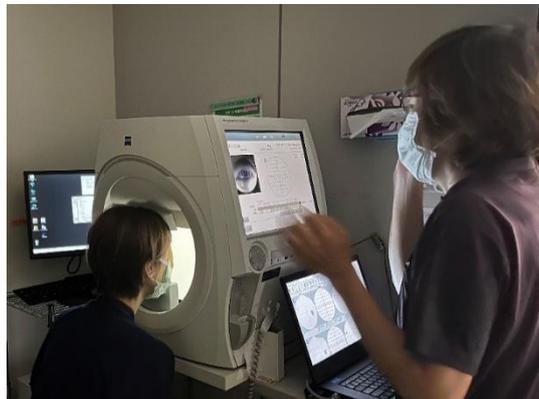
# 眼 科

## 1) 概要

当科は月曜日～土曜日の午前に一般外来を行っています。午後は時間を要する検査などの特殊外来を実施しています。手術は白内障手術が主ですが糖尿病がありますので、レーザー治療にも力をいれています。網膜剥離、緑内障手術に関しては大学に紹介させていただいております。また、大学との連携も良好で最新の診療をスムーズに行えております。

以前手術を行っていた網膜静脈閉塞症や糖尿病網膜症による黄斑浮腫への硝子体注射も週に1度手術室で行っています。(黄斑変性への注射はしていません)

- 当院ではコンタクトレンズの取扱いはありません。
- 眼鏡処方箋のご希望については、まず午前の眼科外来を受診いただき、眼鏡合わせの予約日を設定いたします。来院当日には眼鏡合わせ、処方箋発行はできません。



- 2) スタッフ 常勤医師 1名  
南部 理江

## 3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月 保険算定件数より算出)

手技	件数
水晶体再建術 (眼内レンズを挿入) (その他)	262
緑内障手術 (流出路再建術)	4
硝子体茎頭顕微鏡下離断術 (網膜付着組織を含む)	12
硝子体茎頭顕微鏡下離断術 (その他)	1
その他	7

#### 4) 教育・研修

年2回の全国学会の他に研修会等にも随時参加し、他施設との交流や最新治療の勉強を行なっています。また、研修指定施設の登録を継続しています。

#### 5) 次年度の課題・目標

眼底カメラ



眼底レーザー



YAGレーザー



動的量的視野検査



# 耳鼻咽喉科

## 1) 概要

耳鼻咽喉科は、常勤医師 3 名（田邊正博名誉院長、井野千代徳副院長、井野素子医長）と、非常勤医師で外来診療および手術治療にあたっています。外来診察は月曜日～土曜日の午前中は主に 2 診体制で対応しております。

耳鼻咽喉科診療は内科的治療から外科的治療、心療的加療と幅広い分野をひとつの診療科で行う非常に幅広い診療科です。なかなかすべての分野を専門的に取り扱うことは難しいとされ、大学病院でもすべての専門分野がないことも少なくありません。当院では通常の耳鼻咽喉科診療だけでなく、専門的な治療にも力を入れています。

特に心療耳鼻科（舌痛症や咽喉頭異常感症、めまい症）などでは井野千代徳副院長が通常に加療に加えてカウンセリングも積極的に行っており、遠方より受診される方も少なくありません。また音声外科治療に関しては世界的名医である一色信彦京都大学名誉教授が当院で手術を行うようになり、それを引き継いで田邊名誉院長が治療にあたっています。



## 2) スタッフ 常勤医師 2 名

名誉院長 田邊 正博  
副院長 井野 千代徳  
医長 井野 素子

## 3) 診療実績 (2023 年 4 月～2024 年 3 月 保険算定件数より算出)

術式	件数
口蓋扁桃手術 (摘出)	52
内視鏡下鼻腔手術 1 型 (下鼻甲介手術)	50
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3 型 (選択的 (複数洞) 副鼻腔手術)	29
鼓膜 (排液、換気) チューブ挿入術	21
内視鏡下鼻中隔手術 1 型 (骨、軟骨手術)	16
扁桃周囲膿瘍切開術	14
鼻中隔矯正術	12
声帯ポリープ切除術 (直達喉頭鏡)	11
耳下腺腫瘍摘出術 (耳下腺浅葉摘出術)	10
喉頭腫瘍摘出術 (直達鏡)	8
耳下腺腫瘍摘出術 (耳下腺深葉摘出術)	7
鼻腔粘膜焼灼術	7
顎下腺摘出術	6
気管切開術	6
鼓室形成手術 (耳小骨温存術)	6
喉頭形成手術 (筋弁転位術、軟骨転位術、軟骨除去術)	6
甲状腺悪性腫瘍手術 (切除) (頸部外側区域郭清を伴わない)	6
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 2 型 (副鼻腔単洞手術)	6
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 4 型 (汎副鼻腔手術)	5
アデノイド切除術	4
その他	68

## 4) 教育・研修

## 5) 次年度の課題・目標

## 歯科口腔外科

### 1) 概要

歯科口腔外科は、寝屋川市を始め守口市、門真市、大東市、四條畷市、交野市、枚方市の医院から多くの紹介患者を受け入れています。常勤歯科医師 5 名、研修歯科医師 2 名、非常勤歯科医師 5 名の体制になり、口腔外科手術だけでなく周術期の口腔管理を行い、また NST への参加により、病院歯科としてさらに幅広く活動しています。さらに、骨吸収抑制薬剤顎骨壊死に対する手術に加え、顎変形症の手術に関して著名な古谷昌裕氏を招聘し、矯正歯科治療と顎矯正手術を組み合わせた外科的矯正治療を行っています。

#### 《登録歯科医制度》

地域医療の充実と効率的な医療供給体制を確立しより良い医療を患者さんに提供するために、『地域の各医療機関それぞれの機能や特殊性を活かした適切な役割分担と、業務連携を推進する』という理念のもと、寝屋川歯科医師会と協議し、制定いたしました。これは、地域の診療所連携を充実させる制度です。現在 118 施設の歯科診療所を登録しています。

#### 《睡眠時無呼吸症候群》

日本の中老年男性の約 6 割はいびきをかき、そのうちの 1 割は睡眠時無呼吸症候群の疑いがあります。日本睡眠学会認定の歯科専門医の田村仁孝が、いびき外来にて診察を行っています。

#### 《科・部門の特徴》

当科は大阪歯科大学歯科麻酔科、第一口腔外科の関連病院で厚生省歯科医師臨床研修指定機関、日本口腔外科学会・準研修機関、日本歯科麻酔学会・準研修機関です。口腔外科、障がい者歯科、他科疾患有病者歯科を中心とした二次歯科医療機関で、一般的な歯科治療は連携歯科医療機関に逆紹介しています。

### 2) スタッフ

- 田村 仁孝 [部長]、○南 暢真 [副部長]、○渡邊 信也 [医長]、
  - 布谷 陽子 [医員] ○畦崎史恭[医員]、
  - 藤 喜久雄 [非常勤、元副院長]、○山村 伸一 [非常勤]、○田中 千賀 [非常勤]
  - 古谷 昌裕 [非常勤]、○高済石 [非常勤]
- 歯科衛生士 10 名、受付 4 名、助手 1 名

3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月)

項目	人数	項目	人数
年間外来総患者数	2178人	年間外来総患者数	21785人
入院患者数	955人	全身麻酔下での手術数	701人
障がい者に対する 全身麻酔下歯科治療数	71人		

4) 教育・研修

《厚生労働省認定歯科医師臨床研修機関》

臨床研修歯科医の臨床研修を実施。

小松病院歯科口腔外科臨床セミナー（近隣の歯科医師と症例検討）： 月1回

○令和5年9月 救命救急 健康管理センター研修会 田村仁孝

○令和5年10月6日～8日 第51回日本歯科麻酔学会（長崎）

原田病の患者に対しラリンジアルマスク下で全身麻酔を行った1症例

北山大貴 布谷陽子 南暢真 樋口百花 田村仁孝

○令和4年11月10日第回日本口腔外科学会（大阪市）

家族性地中海熱患者に対し全身麻酔下で埋伏智歯 抜歯を行った1例 渡邊信也

○令和5年11月10日～12日 第40回日本障害者歯科学会（ロイトン札幌）

口腔内の疼痛を主訴にステリィーブン・ジョンソン症候群を疑った症例

樋口百花 布谷陽子 南暢真 北山大貴 田村仁孝

○令和6年2月 寝屋川市歯科医師会講演

より安全に歯科治療を提供するために ～救急薬剤の使用法を含めて～ 田村仁孝

【論文】

○扁平上皮癌の化学放射線治療後に同時発生した下顎前歯部の紡錘細胞扁平上皮癌の1例

口科誌 72 (3) 231-238 辻要 石川敬彬 渡邊信也 小滝真也 中西環 南暢真

○馬蹄形骨切り術を併用した分割 Le Fort I 型骨切り術による上顎歯列弓拡大

日顎変形誌 33 (1) 1-9 高濱石 古谷昌裕 東郷由弥子 有元阿佐緒 橋川直浩

5) 次年度の課題・目標

他科疾患の有病者で抗血栓薬を維持しながらの手術の増加

障がい者歯科（全身麻酔下歯科治療）の患者を受け入れ増加

顎変形症の手術枠の増枠

## 看護部

### 1) 概要

2023年度も、コロナ感染は断続的に続き、小さなクラスターも発生しました。感染状況を鑑みながら看護師の傾斜配置を行いました。日々の業務多忙に加えコロナ感染もあり、看護師の疲弊感は軽減することはなくマンパワー不足が大きな問題となりました。全国的に問題となっている看護師の急性期離れは年々深刻化し、当看護部もスタッフ獲得にむけて邁進した年でした。

またそれに加え、書類業務の煩雑さも継続した課題でした。そんな中、12月に新電子カルテが導入された事は業務削減への期待となっています。

2022年度「協仁会に関わる患者さん・利用者さんの健康寿命延伸に貢献する」をモットーに始まった心不全プロジェクトは、心不全療養指導士が出前出張を行なうなど、地域の方々と交流を持つ事で「共に学び成長する」のできる環境づくりを実現していると感じています。

「私達は、私の家族だったらどんな看護を受けたいかを考えて看護を提供いたします。」を看護部理念に、患者様の元で過ごせる時間が少しでも増やせるように、看護を提供していきたいと思っております。

### 2) スタッフ

看護部長 脇田弥生

看護師 183名 准看護師 21名 看護補助者 43名 クラーク 5名 事務 2名

### 3) 目標

#### 1, 看護の質の向上

各看護単位での専門性を発揮したチーム医療の推進

・カンファレンスの充実

院内外の積極的研修参加

医療協評価の更新

#### 2, 業務改善

科編成に向けての準備

・業務内容と手順の見直し

働きやすい環境を作る

・看護補助者、事務的業務を行う補助者の協力体制の確立

・計画的な有休取得

電子カルテの更新

・効率的な業務を実施し残業時間の短縮

積極的な人員確保

3, 経営参画

安定した病床稼働と日当点（5000点）の確保

・入院促進と退院調整強化

4) 教育・研修

1, 院内研修：クリニカルラダー、OFF-JT

2, 院外研修：看護協会など

3, 専門看護師：がん看護 1名

認定看護師：がん性疼痛看護 1名

がん化学療法看護 1名

緩和ケア 1名

管理者研修修了者

サードレベル 2名

ファーストレベル 6名

5) 次年度の課題・目標

1, 地域包括ケア病棟に向けての取り組み

2, 各マニュアルの見直しと変更

3, 看護師、看護補助者の獲得

4, 人事考課の遂行

## 本院外来

### 1) 概要

本院外来では、救急外来・喘息外来・緩和ケア外来・腎臓内科・内視鏡室の診察を行っており、4月からは呼吸器内科も常勤医師が就任し、気管支鏡などの検査も行っています。また救急外来では24時間救急患者を受け入れ、年間2000台の救急車受け入れを目標としていましたが、2023年度は2,285台と目標達成することができました。

内視鏡検査では、胃カメラなどの上部内視鏡検査、大腸検査の下部内視鏡検査、胃瘻造設などを行っており、緊急を要する患者様には止血術やステント留置術などの対応も行っています。

手術後のがん患者様の抗がん剤治療も、専門のがん化学療法看護認定看護師が対応しており、安心、安全な看護を提供しています。

### 2) スタッフ

責任者	長嶋 順子
看護師	44名（本院3名・クリニック41名）
看護補助者	1名



## 3) 診療実績 (2023 年度 内視鏡検査数)

手技	件数
胃・十二指腸内視鏡	3,337
大腸内視鏡	751
ポリープ切除術 (ポリペクトミー)	129
胃ろうボタン交換	71
胃ろう増設術	13
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)	59
胆管結石 (碎石術・採石術)	30
内視鏡胆管ドレナージ留置・交換 (ERBD)	26

## 4) 教育・研修・教育

<病棟学習会> 1回 1/月

扁桃摘出後の看護・認知症・外来化学療法看護・医療安全・看護倫理・感染・予防接種

## 5) 次年度の課題・目標

- ・ 接遇の強化
- ・ 救急受け入れ態勢の整備
- ・ 看護の質向上のための教育体制の充実

## 手術室

### 1) 概要

手術室はROOM1、2、3、ESWL室、血管造影室、と中央材料室があります。

外科・整形外科・耳鼻科・眼科・泌尿器科・口腔外科の手術を行っております。

外科では主に低侵襲手術の腹腔鏡下手術を提供し、耳鼻科では、全国各地から患者様が来院され対応しております。

眼科は、白内障、硝子体手術。泌尿器科は経尿道的手術や、ESWL（体外衝撃波結石破碎術）、また整形外科は、来年度より脊椎手術や圧迫骨折手術を導入予定です。

口腔外科では、顎変形症による上下顎移動術。循環器内科の心臓カテーテル検査・治療も担当し、ペースメーカー植え込み術や心筋焼灼術も行っております。

医療の高度化に対応し、高齢者、ハイリスク患者様にも、安全・安楽な周手術期看護を提供するために、術前訪問、術後訪問をしております。また、麻酔科医、臨床工学士、放射線技師とも協力し、日々精進しております。

### 2) スタッフ

責任者	中岡 春美
看護師	9名
准看護師	1名
補助者	3名



## 3) 手術件数（2023 年度実績）

科目	件数
総数	1620 件
外科	186 件
乳腺外科	23 件
泌尿器科（ESWL、前立腺生検含）	242 件
耳鼻科	364 件
眼科	301 件
歯科	144 件
整形外科	14 件
心カテ（ペースメーカー植込含）	239 件

## 4) 教育・研修・資格

部署内研修 6 回/年

医療安全・感染研修参加 各 2 回/年

看護協会研修参加

看護教育ラダー研修参加

特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者取得

## 5) 次年度の課題・目標

手術室看護師として、専門分野に特化した知識や技術が提供できるように日々、自己研鑽し、手術を受ける患者様や家族に寄り添い、個別性のある安全で安楽な周手術期看護を提供することを目標としております。

## 3 階病棟

### 1) 概要

当病棟は、40 床で循環器科・泌尿器科を中心とした DPC 急性期病棟です。

循環器科は月～金で手術を行っており、主に冠動脈造影（CAG）・経皮的冠動脈インターベンション（PCI）・ペースメーカー挿入術（PMI）など実施しています。心不全の入院も多く、法人の取り組みとして心不全・高血圧プロジェクトと連動して心不全の患者教育に取り組んでいます。

泌尿器科は、月・木の手術日で膀胱腫瘍手術・経尿道的前立腺手術・経尿道的尿路結石除去術・経皮的腎瘻増設術・体外衝撃波腎、尿管結石破碎術など実施しています。近医から血尿や腎盂腎炎などの入院目的の紹介も多く、北河内地区で中心的な役割を担っています。

手術件数は循環器 260 件・泌尿器科 355 件、入院件数は平均 111 件/月、病床稼働率 98.8%、日当点平均 5820 点/月であった。



### 2) スタッフ

責任者	久木 ひとみ
看護師	24 名
看護補助者	9 名
クラーク	1 名

3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月)

循環器

手技	件数
心カテ (左心) 冠動脈造影	81
PCI (冠動脈形成術、ステント留置術)	99
経皮的カテーテル心筋焼灼術	39
四肢の血管拡張術・血栓除去術	19
ペースメーカー移植術	17
その他	5

泌尿器科

手技	件数
手技	件数
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	38
経尿道的尿管ステント留置・抜去術	93
経尿道的尿路結石除去術 (レーザー・その他)	49
経尿道的前立腺手術 (核出術・レーザー・その他)・前立腺生検	82
膀胱悪性腫瘍手術・	42
膀胱結石摘出術	10
その他	41

4) 教育・研修

<部署勉強会>

褥瘡・化学療法・がん性疼痛緩和・記録、必要度・身体拘束について・感染・  
認知症に対する薬剤

5) 次年度の課題・目標

- ・アセスメント能力を高め、質の高い看護を提供する
- ・業務内容を見直し・タスクシフトを進める

## 4 階病棟

### 1) 概要

当病棟は消化器内科・眼科・歯科・口腔外科を中心とした 36 床の混合病棟です。

消化器内科は、総胆管結石・早期胃がん、ERCP や ESD の処置や、大腸検査入院 憩室炎などの疾患が多いです。眼科は、白内障や硝子体の手術をされる患者様がほとんどで白内障は、2 泊 3 日、硝子体は 8 泊 9 日の入院となっています。

歯科は一般歯科とは別に顎変形症の入院患者様も受け入れ、9 泊 10 日の入院期間となっています。

他は内科疾患の高齢者が多く、施設や在宅からの患者様を、尿路感染、腎盂腎炎 誤嚥性肺炎などの病気の方が入院されています。

スタッフ間のチームワークは良く、思いやりの精神で患者様を支え、笑顔で活気のある病棟となっています。入院時からコメディカルとチームで対応し患者様起点となるよう日々安心・安全な看護を提供しています

### 2) スタッフ

責任者	永村 礼子
看護師	18 名
看護補助者	6 名
クラーク	1 名

## 3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月 保険算定件数より算出)

手技	件数
顎変形症手術 (上顎骨形成/下顎骨形成/顎骨内異物除去術)	144 (75/52/17)
白内障 (水晶体再建術)・硝子体手術・緑内障手術	273 (260/11/2)
平均在院日数	10.8日
大腸ポリープポリペクトミー (内視鏡)	47
早期胃癌 内視鏡的粘膜剥離術 (ESD)	4
EST	15
他 (胃瘻造設・胆管ステント・胆管ドレナージ・消化管止血術・CV) など	23

## 4) 教育・研修・教育

- ・看護協会の研修を活用した研修への参加
- ・OFFJT を用いた院内研修の参加
- ・各疾患や医療安全・感染などの病棟学習会

## 5) 次年度の課題・目標

- ・病棟稼働率の維持 (105%を目標)
- ・加算の取得：入退院支援加算、多機関共同加算、介護支援指導料、救急加算など
- ・新入院数の確保 130名/月
- ・専門的な知識を高めるため、院内外の研修への積極的参加・促進、ナースィングスキルを用いた学習管理
- ・安全活動：イベントカファリスの参加、イベントの分析を行い、業務改善へ繋げる

## 5 階病棟

### 1) 概要

当病棟は消化器外科、整形外科、乳腺外科、糖尿病内科を中心とした、40床の混合病棟です。消化器外科は、腹腔鏡下胆嚢摘出術や鼠径ヘルニア、胃切除、腸切除、急性虫垂炎、痔核を中心に手術を行っています。手術以外に化学療法やイレウスの保存療法を行う患者様もいらっしゃいます。整形外科は転倒による圧迫骨折の入院患者が多く、抜釘や大腿骨頸部骨折の手術も実施しています。乳腺外科は手術目的でのパス入院が中心となっており、糖尿病内科は血糖コントロール目的での入院が多く、SMBG やインスリン自己注射の指導を中心に行っております。他一般内科は誤嚥性肺炎や尿路感染症などの疾患が多く、高齢者が多数を占めています。

病棟スタッフは、20～60代と幅広い年齢層ですが、和気藹々といつも笑顔に満ち溢れています。チームワークも良く、みんなで業務改善に取り組み、知恵を出し合いながら働きやすい職場作りを目指して取り組んでいます。

### 2) スタッフ

責任者	豊本 容史美
看護師	19名
看護補助者	9名
クラーク	1名

## 3) 手術実績（令和5年4月～令和6年3月）

手技	件数
腹腔鏡下胆嚢摘出術	30
鼠径ヘルニア手術	22
腹腔鏡下鼠蹊部手術（両側）	22
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	11
腹腔鏡下虫垂切除術	11
痔核手術（脱肛を含む）（硬化療法）	6
人工骨頭挿入術（股）	5

## 4) 教育・研修・教育

## ＜病棟学習会＞

- 6/14 CVポート
- 6/26 圧迫骨折について
- 9/29 BLS
- 10/11.18 ストマ管理
- 10/21 せん妄
- 11/9 医療安全について
- 12/15 糖尿病について
- 12/21 感染

## 5) 次年度の課題・目標

- ・新入院数月平均 120 名、病床稼働率 105%を目指す  
医師やコメディカルと情報共有を行い、入院早期からの退院調整を病棟全体で行えるようにする  
退院カンファレンスを充実させ、加算を取得していく
- ・看護の質の向上  
各診療科カンファレンスのスタッフ酸化を啓発し、患者の情報共有に努める  
病院の特性を活かした病棟学習会の遂行
- ・安全活動  
ヒヤリハット、イベントの分析を行い業務改善へと繋げる  
感染管理の徹底

## 6 階病棟

### 1) 概要

6 階病棟は小児科・耳鼻科の 28 床の混合病棟です。耳鼻科は水・金が耳鼻科手術日となっており、主に肥厚性鼻炎や慢性副鼻腔炎、鼓室形成術や扁桃腺摘出・甲状腺腫瘍摘出術など鼻や耳の手術を行っています。手術以外では眩暈や嚥下障害・顔面麻痺・突発性難聴などの患者さんも多く見られます。突発性難聴で糖尿病がある患者様は糖尿病科の医師が主治医となり、耳鼻科併診という形で入院することがあります。小児科では川崎病・気管支喘息・肺炎などの疾患の他にも日帰りで MRI や脳波・アレルギー負荷試験などの検査入院も受け入れています。また近院からの紹介や緊急入院も随時受け入れられるようベッドの調整をおこなっています。術後の管理および身体的・精神的フォローを心がけ安全・安心して過ごしていただけるよう工夫をおこなっています。それ以外にも一般内科の患者様を受け入れており、退院後の不安を軽減できるよう心がけています。他部門と連携を取り、患者様個々のニーズに寄り添いながら安心して退院ができるように、スタッフ一同協力し看護の提供をおこないます。

### 2) スタッフ

責任者	白木 美由紀
看護師	13 名
看護補助者	6 名
クラーク	1 名

## 3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月) 耳鼻科

手技	件数
内視鏡下鼻腔手術 1 型 (下鼻甲介手術)	57
口蓋扁桃手術 (摘出)	56
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3 型 (選択的 (複数洞) 副鼻腔手術)	31
鼓膜 (廃液、換気) チューブ挿入術	18
鼻中隔矯正術	11
声帯ポリープ切除術 (直達喉頭鏡)	11
扁桃周囲膿瘍切除術	9

## 診療実績 (2023年4月～2024年3月) 小児科

手技	件数
アレルギー負荷試験	226
食物蛋白誘発胃腸炎 (FPIES)	6

## 4) 教育・研修・教育

## &lt;病棟勉強会&gt;

- ・眩暈体操・リハビリについて
- ・せん妄予防

## &lt;小児科カンファレンス&gt;

毎週 (金) 13:30～ 入院患者の症例・治療検討

参加者: 小児科医師、病棟看護師、薬剤師、管理栄養士

## 5) 次年度の課題・目標

- ・新入院 130 名/月 平均在院日数 7 日
- ・クリニカルパスの作成と活用
- ・耳鼻科・小児科の予定・緊急入院受け入れ 30-40 人/週
- ・手術件数 4-6 件/週
- ・残業時間を平均 30-40 時間/月から 20 時間/月へ削減
- ・徹底した感染管理・感染予防

## 7階病棟

### 1) 概要

令和5年5月8日より新型コロナウイルスが感染症法により、5類感染症に変更されました。従来は新型コロナウイルス感染症患者様の受け病棟でしたが、この変更に伴い新型コロナウイルス感染症患者様だけではなく一般入院患者様も積極的に受け入れを行うようになりました。令和4年度の新入院受け入れ件数は343名でしたが、令和5年度では577名と前年度比168%上昇しております。また院内クラスターにも対応し、他部署で発生した新型コロナウイルス感染症患者様の受け入れも積極的に行い、新型コロナウイルス感染症患者数に合わせて部屋の調整を行い、院内クラスターの早期の終息へ尽力してまいりました。5類移行に伴う対応を行いながらも、柔軟な入院の対応をし、院内感染を起こすことなく看護を行っております。高齢者や要介護状態の入院患者様が多い中で、感染症患者様にも真摯に向き合い、その人らしい生活が行えるよう尊重した看護の提供を行うことを目標として日々取り組んでおります。

### 2) スタッフ

責任者	久保 千寿子
看護師	15名
看護補助者	5名
クラーク	1名

## 3) 診療実績 (令和5年4月～令和6年3月)

	新入院数	病床稼働率	平均在院日数
4月	26名	54.3%	20.8日
5月	58名	59.8%	9.5日
6月	55名	74.0%	15.1日
7月	45名	76.1%	17.1日
8月	51名	75.8%	15.5日
9月	47名	78.6%	17.6日
10月	59名	81.1%	14.0日
11月	60名	83.0%	13.3日
12月	45名	70.6%	12.8日
1月	52名	80.6%	13.6日
2月	26名	57.8%	18.7日
3月	53名	76.9%	12.1日

## 4) 教育・研修

## 2023年度 病棟学習会

- 5月：感染（感染の原則原理が理解でき実践できる）
- 7月：医療安全、KYT（事例を通し対策を考え、実践できる）
- 9月：せん妄、認知症（認知症患者の看護が理解でき、患者への対応ができる）
- 11月：褥瘡（褥瘡患者の評価ができ、適切なケアを提供できる）
- 1月：BLS（急変時の対応について理解でき、実践できる）
- 3月：接遇（医療接遇について学び、実践できる）

## 5) 次年度の課題・目標

- ・診療科編成に伴う、新診療科のマニュアル作成とスタッフへの浸透
- ・看護補助者の業務整理とタスクシフト
- ・コロナウイルス感染症患者対応マニュアルの見直しと修正
- ・残業時間削減
- ・ヒヤリハットの提出件数の増加と業務改善

## ひまわり病棟（緩和ケア内科）

### 1) 概要

ひまわり病棟では、がんによる身体的・精神的な苦痛をもつ患者を受け入れ、心身ともに苦痛が緩和され、人生の最終段階をその人らしく穏やかに過ごしていただけるような看護を目指しています。またご家族の精神的な苦痛が和らげるよう、家族とのかかわりも大切に、退院後もグリーンケアを通して辛い気持ちを支えられるように努めています。昨今のコロナ禍において、面会制限など十分な患者・家族ケアができにくい状況下で少しでもご意向に寄り添うことができるよう日々試行錯誤しながら、多職種と連携して、緩和ケアに取り組んでいます。

○ 2020年よりコロナ禍で中止になっていたイベントの再開をしました。

#### 1: コスモスの会（家族会）

2023年度は面会制限のある中ご入院いただいたご家族12名の参加がありました。

お礼の手紙や感謝の言葉をいただきひまわり病棟に関わるスタッフの活力になっています。

#### 2: ボランティア（不定期 各月2回）

アロマセラピーによるマッサージ

ドッグセラピー

ティサーブ

#### 3: 病棟イベント

季節ごとによるレクリエーション 夏祭り、クリスマス会

### 2) スタッフ

責任者 増本 和美

看護師 14名

看護補助者 3名

3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月)

データ	件数
入院患者数	325人
退院患者数	327人
病床稼働率	96.1%
自宅退院もしくは施設退院患者数	66人
お看取り人数	290人
平均在院日数	18.6日

4) 教育・研修・教育

<院外研修>

- 日本緩和医療学会学術大会
- 日本心身医学会近畿地方会

<病棟勉強会>

- ACP (アドバンスケアプラン)    せん妄   麻薬・CSI   家族ケア   グリーフケア   他

5) 次年度の課題・目標

課題

- ・面会・外出外泊制限の緩和を行っていきます。

目標

- ・実践能力を高め安全・安心な看護を提供します
- ・多職種と連携し患者・利用者起点で看護を提供します
- ・ワークライフバランスの充実を図り、  
働きやすい職場環境の調整を行います。



テラスでは、季節の花や野菜を育てています。  
ベッドで移動して気分転換を図ることもできます。

## 放射線科

### 1) 概要

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症移行後も陽性患者対策を継続しながら安全管理を行い地域医療の受け入れに貢献しました。

患者・利用様、スタッフに対して安全性を確保した医療提供を目的としました。

安全な医療とは、検査管理・機器管理・放射線管理・教育・施設や技師認定などです。

また、診療放射線技師が各装置や放射線安全管理の専門知識向上のために各種認定取得・更新を目指しております。施設認定 3 個、技師認定 25 個を取得しています。

6 月には、MRI 画像診断管理認証施設認定更新も登録されました。

12 月からは、新電子カルテ入れ換えに伴い、放射線科システム関連は、富士 PACS 画像サーバーに入れ換えを行いました、同意書、検査問診なども電子化運用を行いました。

主な検査撮影件数 MMG は、2809 件で昨年と不変ですが UGI は 4093 件 (2.3%増)、MRI は 4160 件 (3%減)、CT は 11148 件 (4%減) でした。コロナ感染症の減少傾向でも患者数の戻りが低迷な年でしたのでほぼ昨年同様の撮影件数を確保できたと考えております。

### 2) スタッフ

画像診断医責任者：名誉副院長 大上庄一 奈良県医科大学 昭和 53 年卒

放射線科専門医 (画像診断)、I V R 専門医

消化器病専門医、超音波指導医 (消化器)

非常勤画像診断医師：5 名

放射線科責任者：有山直也、

診療放射線技師：12 名

事務：3 名

## 3) 診療実績 (令和5年4月～令和6年3月)

撮影件数	件数
CT (単純・造影)	11148
冠動脈 CT	253
大腸 CT	241
MRI (単純・造影)	4160
心臓 MRI	110
マンモグラフィ	2809
UGI (上部消化管)	4093
骨密度	1611
血管造影	269

## 4) 教育・研修

## ＜施設認定＞

マンモグラフィ検診施設画像認定、大腸 CT 検査技術施設認定

MRI 画像診断管理認証施設

## ＜資格・認定＞

X線CT認定技師 6名、肺がんCT検診認定技師 2名、大腸CT専門技師 3名

磁気共鳴(MR)専門技術者 1名、検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師 3名

日本血管撮影インターベンション専門診療放射線技師 2名

救急撮影認定技師 2名、放射線管理士 1名、医療情報技師 1名

胃がん検診専門技師 3名、日本消化器がん検診学会読影補助認定 1名

## ＜主な学習会＞

日本放射線技術学会、CT画像研究会、関西CT技術シンポジウム

大阪消化管撮影技術研究会、日本消化器がん検診学会、

関西 MRI Gyro Meeting、関西乳房画像研究会、京都マンモグラフィ研究会

## 5) 次年度の課題・目標

- ・放射線医療機器稼働が昨年実績の100%以上を目標としています。
- ・次年度は、健診やCT、MRI検査紹介の受け入れを拡大とします。中期的に各モダリティの後継者育成、技師認定・施設認定の更新、医療装置の更新を目指します。
- ・課題は、業務のタスク・シフト移行や人材評価導入への切り替えです。

## 臨床検査科

### 1) 概要

検体検査（生化学・血液・免疫・遺伝子・輸血）と生理検査業務を常勤検査技師 17 名  
非常勤技師 2 名、受付事務 4 名の合計 24 名で運営しています。

診察前検査を実施し外来診療に対応しています。外来の血液検査は生化学・免疫・血清  
ホルモン・腫瘍マーカー含め 1 時間以内に結果を報告しています。

夜間は当直体制をとり、日祝日も含め 24 時間体制で検査に対応しています。

### 2) 検査スタッフ

部長	角樋	昭彦
次長	衣斐	勝巳
係長	西口	光
主任	三田	美紗子
	奥村	英樹



日本電子自動分析装置 JCA-ZS050

臨床検査技師 19名 受付事務 4名

### 3) 診療実績（2023年4月～2024年3月）

手技	件数
尿一般検査	40659
血液検査	58971
生化学検査	58551
心電図検査	10247
心臓超音波検査	3130
腹部超音波検査	5038
乳腺超音波検査	1725
下肢動静脈超音波検査	480
肺機能検査	2543
聴力検査	4996

#### 4) 教育・研修・教育

##### 〈認定資格〉

超音波検査士（消化器・循環器・体表・血管・健診）、血管診療技師（CVT）  
日本乳がん検診精度管理中央機構 A 評価、糖尿病療養指導士、  
二級臨床検査士（循環生理学・臨床化学・血液学、微生物）、緊急臨床検査士  
心不全療養指導士、POCT 測定認定士

##### 〈所属学会〉

日本超音波検査医学会・日本超音波検査学会・日本心エコー図学会・日本循環器学会  
日本乳腺甲状腺超音波医学会・日本不整脈心電図学会・日本臨床衛生検査技師学会

#### 5) 次年度の課題・目標

学会発表・研修会の参加を意欲的に高め  
資格認定取得の向上を目指します。  
常に最新のガイドラインを準拠し、専門的知識  
や技術の習得に向け積極的に取り組みます。



全自動遺伝子解析装置 GeneXpert システム ・ GENECUBE

## 薬 剤 科

### 1) 概要

2023年度は昨年度に復活させた病棟常駐活動を年間通して実施することができ、服薬指導件数については目標としていた月平均600件以上を達成することができました。また、薬剤師として他職種との連携を図り、患者さんに対して安心・安全な薬物療法提供に寄与することが出来ました。

### 2) スタッフ

薬剤科 部長	錦織 昌裕
常勤薬剤師	塚本 貴庸子 柿本 未来 米谷 遼太 中島 理絵 熊田 恵理 金田 朋子 松宮 佳紀 宮上 奈央 太田 千絵 奥野 園実 井岡 瑞樹子 中澤 秀美
パート薬剤師	銅山 祐花 奥田 美幸
調剤補助	堀内 千穂 大野 京子

### 3) 実績

項目	実数
入院処方箋枚数	48065 枚
入院注射箋枚数	161355 枚
麻薬処方箋枚数（一般病棟）	1135 枚
麻薬処方箋枚数（緩和ケア病棟）	3951 枚
TPN 調整人数	156 人
服薬指導実施人数	6596 人
服薬指導実施件数	7987 件
退院指導実施件数	4127 件
抗癌剤調整件数	442 件

#### 4) 教育・研修・教育

##### 【研修・学会参加】

- ・日本医療薬学会にて発表
- ・日本循環器学会参加
- ・日本病院薬剤師会 近畿学術大会参加
- ・製薬企業 MR による新薬およびガイドライン変更に伴う情報更新に関する勉強会

##### 【資格取得状況】

日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師	6名
認定実務実習指導薬剤師	2名
日本糖尿病療養指導士	1名
NST 専門療養士	1名
感染制御認定薬剤師	1名
スポーツファーマシスト	2名

#### 5) 次年度の課題・目標

諸般の事情により数名の欠員が出ることから人員確保と、薬学実務実習を通じて大学の協力の下、地域の薬局との連携強化を図り、薬学生の段階で臨床薬剤師の魅力について感じてもらえるように、実務実習ならびに新人薬剤師のための教育カリキュラムの構築を図り、安定的な人材確保に努めたいと考えています。

## 栄養科

### 1) 概要

安心安全な病院給食の安定供給と、一人ひとりにあった栄養サポートを提供することを目指しています。外来での栄養指導は、当院の患者だけでなく他院通院中の患者へもオンラインで指導を行なっています。入院患者に対しては、入院時から退院時まで定期的な栄養評価を行ない、退院後も食事に困らないよう栄養指導や食事相談にてサポートしています。退院後も健康的な食生活を送られるよう、在宅訪問栄養指導や外来栄養指導にて継続的に栄養サポートすることが地域住民の健康寿命延伸に繋がると信じて活動しています。

患者への個別栄養サポート活動を継続しつつ、様々な事項の必要性を見直し、業務のスリム化を実行しました。

見直し・変更内容：お粥の種類変更(分粥重湯の廃止)、食種名の変更(オーダーしやすい名称へ)、採用栄養剤のスリム化(使用頻度が少ないものを廃止)、延食内容の変更(衛生的に提供できる内容へ)…約 100 分/日、年間約 608 時間の時短に繋がりました。

### 2) スタッフ

科長	新谷 祐加
係長	村田 美幸
管理栄養士	8 名
栄養士	4 名
調理師	1 名
調理補助パート	26 名



## 3) 診療実績 (2023年4月～2024年3月 保険算定件数より算出)

手技	件数
入院栄養指導	2865
外来栄養指導	3315
在宅訪問栄養指導	19
オンライン栄養指導	34
NST	2933

## 4) 教育・研修

## &lt;施設認定&gt;

NST 認定施設

## &lt;資格・認定&gt;

病態栄養専門管理栄養士 (1名)

日本糖尿病療養指導士 (2名)

摂食嚥下リハビリテーション認定士 (1名)

健康運動指導士 (1名)

心不全療養指導士 (1名)

栄養経営士 (1名)

## 5) 次年度の課題・目標

## &lt;2024年度目標&gt;

- ・ 厨房作業時間を 85→77 時間/日とする
- ・ 平均残食量を 50%に削減する

病院給食の安定供給を目指し、工程の見直しとマニュアル化をすすめたうえで、質の向上を目指します。それらが、患者への個別サポートを充実させることに繋がるため 1 つずつ取り組んでいきます。

## リハビリテーション科

### 1) 概要

敬意の心で患者さんやご家族の立場にたったリハビリテーションの提供を掲げ、臨床・教育に取り組んでいます。基本動作（立つ・座る・歩くなど）や日常生活動作（トイレ動作・食事動作など）、摂食嚥下機能の低下を最小限に抑え、スムーズに元の生活に戻れるよう早期介入・早期離床を目指しています。また、褥瘡対策チームや、栄養サポートチーム、摂食嚥下チームなどへの参加、心不全再入院予防の取り組みにも力を入れており医師や他職種との連携も積極的におこなっています。

早期リハ開始率（4日以内）は80%（2%増）、リハ提供時間平均40分と、早期介入と充実したリハ提供が継続できていると考えています。そして、退院時リハ指導は95%（2%減）実施しており退院後も機能維持向上が図れることを意識し業務に取り組んでいます。また、スタッフの基本資格以外の資格保有率が53%と日々スキルアップを図り質の向上に努めています。

### 2) スタッフ

医師	金 雄一
科長	河上 侑磨
係長	中井 典子
理学療法士	14名
作業療法士	1名
言語聴覚士	3名
事務員	1名



## 3) 診療実績（令和5年4月～令和6年3月 リハビリシステムより算出）

患者数	2972名
新規患者数	1755名
早期開始率（4日以内）	80%
リハ患者の自宅復帰率	84%
リハ提供単位数	2.00単位
退院時リハ指導実施率	95%

## 4) 認定施設基準

運動器リハビリテーション（Ⅰ）、呼吸リハビリテーション（Ⅰ）

脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）、廃用症候群リハビリテーション（Ⅱ）

## 5) 教育・研修

## ＜取得資格＞

認定理学療法士：管理・運営/循環/運動器（各1名）、

認定言語聴覚士：摂食嚥下（1名）、

心臓リハビリテーション指導士（5名）、心不全療養指導士（2名）

3学会呼吸認定療法士（6名）、日本糖尿病療養指導士（1名）、

がんリハ研修会修了者（7名）、臨床実習指導者講習会修了者（3名） など

## ＜参加学会・所属学会＞

日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本離床学会、

日本循環器学会、日本高血圧学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会

## 6) 次年度の課題・目標

- ・医療介護連携を積極的におこなう（法人内の介護事業部や担当ケアマネとの情報共有）
- ・院内の転倒転落予防活動のリーダーシップをとる
- ・チーム医療への積極的な参加（心不全高血圧プロジェクトへの参加）

## 臨床工学科

### 1) 概要

臨床工学技士は、医師の指示のもと、呼吸・循環・腎代謝に関連する生命維持装置の操作・保守ならびに病院内の医療機器の保守管理・点検・修理を担う職種であり、医療機器を介して患者様・医療スタッフが安心・安全に医療機器を使用いただけるよう機器運用に取り組んでいる。

また夜間・休日は時間帯を問わず、臨床工学技士が 24 時間オンコール体制で臨床業務での緊急の診療支援ならびに人工呼吸器をはじめとする医療機器のトラブルにも対応できる体制を構築している。

臨床現場での診療支援業務については、循環器内科での心臓カテーテル室における清潔介助業務と外回り業務、IABP・PCPS の補助循環装置の操作と管理、心臓ペースメーカ植込み手術時の立ち会いやペースメーカ外来や病棟でのデバイスチェックとフォローアップならびに心臓ペースメーカ植込み患者様の MRI 撮像前後での対応、泌尿器科での ESWL(体外衝撃波結石破碎術)業務支援、経尿道的前立腺レーザー蒸散術(PVP)や経尿道的尿路結石破碎術(TUL)で使用されるレーザー手術装置の設定・操作など医師の指示のもと、他職種と連携・協同し安全な検査・治療・手術を患者様に提供できるよう努めている。

心臓ペースメーカ関連業務においては、遠隔モニタリングシステム導入時の機器説明や条件付き MRI 対応心臓ペースメーカ使用時に発行されるカードの説明をはじめ、植込み型心臓不整脈デバイスに関する内容について患者様あるいはご家族様に丁寧かつ分かりやすい言葉でご説明するよう心がけている。

医療機器管理については、手術室での麻酔器や手術台、輸液ポンプ・シリンジポンプ、除細動器(AED を含む)、人工呼吸器、生体情報モニターなど当科で取り扱う種類も多岐に渡る。機器トラブルや点検修理依頼に対しても柔軟に対応している。

### 2) スタッフ

次長 中島 準仁(※医療機器安全管理責任者 兼 医療ガス安全管理責任者)

科長 前田 敦美

臨床工学技士；全 4 名

## 3) 業務実績 (2023年4月～2024年3月)

業務内訳	件数
心血管カテーテル検査(※CAG(冠動脈造影検査)/FFR(冠血流予備量測定検査))	180/11
心血管カテーテル治療(※PCI(冠動脈治療)/EVT(末梢血管治療))	111/21
不整脈カテーテル治療(高周波カテーテルアブレーション)	39
心臓ペースメーカ植込み手術立ち会い(※新規植込み手術/電池交換手術)	19/2
植込み型心臓不整脈デバイス フォローアップ(ペースメーカ外来、病棟でのチェック)	274
麻酔器始業点検	430
ESWL(体外衝撃波結石破碎術)立ち会い	110
泌尿器レーザー手術立ち会い(※TUL(尿路結石破碎術)/PVP(前立腺レーザー蒸散術))	39/2
医療機器点検・修理	124

## 4) 教育・研修

## ＜取得資格＞

呼吸療法認定士(1名)、心血管インターベンション技師(1名)、急性期ケア専門士(1名)、認定ホスピタルエンジニア(1名)、医療ガス安全管理責任者講習受講修了(1名)、心電図検定2級(1名)、臨床ME専門認定士(1名)、第1種ME技術認定(1名)、第2種ME技術認定(3名)、レーザー安全教育講習受講修了(1名)

## ＜所属学会＞

日本臨床工学技士会、大阪府臨床工学技士会、日本循環器学会、日本不整脈心電学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本心不全学会、日本呼吸療法医学会、日本手術医学会、日本集中治療医学会、日本医療機器学会、日本医療ガス学会、日本アフエレーシス学会、日本レーザー医学会、日本医療福祉設備協会

## 5) 次年度の課題・目標

- ・職員への医療機器に関する勉強会の開催と適正使用の啓蒙活動
- ・ペースメーカはじめ患者様への丁寧かつ分かりやすい説明
- ・認定資格取得をはじめ部署全体の質の向上に努める

## 病院管理課

### 1) 概要

小松病院管理課は、歯科・口腔外科、外来、入院部門で地下1階、1階、2階フロアで分かれています。それぞれの役割に特化して専門的に業務を執り行っているところが特徴です。歯科・口腔外科では「登録歯科医制度」を採用しており、118件の地域の歯科診療所・クリニックと連携を強化して診療所・クリニックで治療が困難な症例をご紹介いただいております。外来では炎症症例、外傷症例、(非)歯性腫瘍、障害者歯科治療を中心に行い、また全身麻酔下での治療が必要な症例では入院で受け入れを行っており、顎変形症に対しての手術ができる医療機関としても特徴的です。外来ではリハビリ、特殊外来、紹介などを中心に行っておりますが、2次救急医療機関として年間2,000件の救急搬送を受け入れしており、内科・循環器(通年)、小児科(月2回土曜日)を中心に日勤帯ではその他外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻科症例も積極的に受け入れを行っております。入院部門では入院440件/月の受け入れ、症例として内科(一般、循環器、消化器、呼吸器、糖尿病内科)、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻科を受け入れております。小児科は寝屋川市内で唯一入院機能を持っているのが特徴です。

### 2) スタッフ

管理課副主任 前川 昌子/歯科・口腔外科 4名/外来 4名/入院 8名

### 3) 資格

診療情報管理士・・・2名 診療報酬事務能力検定・・・歯科1名、外来1名、入院3名

### 4) 次年度の課題・目標

- ・業務の効率化(50%削減)・丁寧な説明を心がける(不明点がないかお声がけをする)
- ・情報共有度を上げてスピードと質を高める・法人目標(KGI)の達成
- ・施設基準管理士の取得

○達成に向けてのKPI 月度収入37000万円

- ・歯科・口腔外科・・・外来100名/日、月度収入1000万円
- ・外来・・・救急受け入れ167件/月、月度収入3000万円
- ・入院・・・入院数500件/月、稼働率105%、月收入33000万円

○未収率0.4%未満/減点率0.4%未満

## 3) 受け入れ実績（令和5年年4月～令和6年3月 保険算定件数より算出）

手技	件数
◇歯科・口腔外科（外来）患者総数	
・紹介	2091
・登録医	118
・障害者歯科治療	71
・全身麻酔手術	701
◇外来患者総数	
・紹介	961
・救急受け入れ件数	2294
◇入院患者総数	5733
退院患者総数	5744
◇主要診断群分類	
(01) 神経系	66
(02) 眼科系	266
(03) 耳鼻科系	834
(04) 呼吸器系	830
(05) 循環器系	580
(06) 消化器系、肝・胆・膵疾患系	1604
(07) 筋骨格系	98
(08) 皮膚・皮下組織	317
(09) 乳房の疾患	34
(10) 内分泌・栄養・代謝	306
(11) 腎・尿路系、男性生殖器系	591
(12) 女性生殖器系、産褥期・異常分娩	18
(13) 血液・造血器・免疫臓器	61
(14) 新生児、先天性奇形	9
(15) 小児疾患	124
(16) 外傷・熱傷・中毒	84
(17) 精神疾患	9
(18) その他疾患	233

## 地域医療連携室

### 1) 概要

#### (前方業務)

地域住民の方が、住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らす事が出来る様に、必要とされている最善のサービスをご提案できるよう日々自己研鑽を行っています。「地域のために、患者・利用者起点の医療看護介護を実践します」をモットーに、患者様がより満足できるサービスの提供に努めてまいりました。診療体制や救急体制については、地域及び関係機関にご案内を郵送しています。2023年度の紹介実績は、紹介数 14,254 件（月平均 1,188 件）紹介入院数 3,617 件（月平均 301 件）です。

地域医療機関からのニーズに対応するため、ホームページから診察案内が閲覧できるだけでなく、それぞれの診療科のご紹介を行なっております。また、検査・受診申込用紙、緩和ケア面談申込用紙がホームページからダウンロード可能で、小児科においては診察予約も可能となっております。

#### (後方業務)

当院は地域の基幹病院としてだけでなく、かかりつけ医としての役割を担っております。かかりつけ医の先生方、介護施設の方、公共機関と連携を図り、良質な医療を提供し、入院時より患者様やご家族が安心した退院後の生活が送れるよう、一人一人に合った医療・看護・介護が提供できるよう努めてまいりました。依頼内訳は、新規 2,365 件（うち緩和 979 件） 継続 5,050 件（うち緩和 2,459 件）でした。

また、地域の医療機関等への広報活動（地域の医療機関への診療案内の配布及び訪問）、地域の医療機関情勢の把握、紹介入院相談窓口（緩和ケア含む）、紹介患者の把握及び診療情報提供書の管理、寝屋川市神経筋難病ネットワークの窓口として、患者様の円滑な医療介護の目的の遂行と QOL の向上、社会復帰の促進を目的とし、スタッフ一同業務に努めています。

## 2) スタッフ

- 地域医療連携室 : 山下 栄一、森川 奈穂子、小林 紀子、島西 彩佳  
 櫻間 奈緒美 (他派遣 1 名)
- 看護師 : 中谷 武司
- 社会福祉士 (MSW) : 北原 真実、多田 眞理、善家 由佳、木天 綾、  
 柿原 貴恵
- 送迎・搬送担当 : 伊藤 秋人、平田 文男、東本 勉
- 予約センター : 野村 直美 (他派遣 3 名)

## 3) 紹介実績 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

### 紹介

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度累計
<b>総合計</b>	<b>1,200</b>	<b>1,133</b>	<b>1,281</b>	<b>1,200</b>	<b>1,180</b>	<b>1,154</b>	<b>1,174</b>	<b>1,188</b>	<b>1,261</b>	<b>1,122</b>	<b>1,114</b>	<b>1,247</b>	<b>14,254</b>
病院から	257	291	277	270	254	298	293	289	306	275	294	319	3,423
診療所から	687	620	741	692	693	615	635	672	644	603	567	660	7,829
歯科から	202	172	208	181	185	185	190	160	254	180	208	214	2,339
施設から	54	50	55	57	48	56	56	67	57	64	45	54	663

### 逆紹介

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度累計
<b>総合計</b>	<b>537</b>	<b>451</b>	<b>565</b>	<b>564</b>	<b>532</b>	<b>500</b>	<b>518</b>	<b>487</b>	<b>584</b>	<b>648</b>	<b>576</b>	<b>543</b>	<b>6,505</b>

## 4) 教育・研修

<教育> 院内研修

<研修> 心不全療養指導士

## 5) 次年度の課題・目標

最適な医療を繋ぐため、地域におけるハブ機能を構築します (最適な医療機関への紹介)

地域の医療機関 (医科・歯科) と協同で健康寿命の延伸に取り組みます

患者様の利便性を思い、必要とされる事業 (サービス) を提供致します

## 診療情報管理室

### 1) 概要

当室では、D P C対象病院の施設基準である診療録管理体制加算を届出し、診療情報管理士がWHOの国際統計分類 I C Dのコード番号で疾病・手術・処置等を分類しています。また、I C Dコードを用いた入院医療のデータベース作成、診療情報の集積・分類・統計・管理業務をしています。その他、診療録開示手続に関する業務、電子カルテの運用支援業務を行っています。また全国がん登録の 2023 年診断症例のデータを提出しました。

当院ではD P Cで入院費を算定しています。D P Cとは急性期入院医療の診断群分類に基づく1日あたりの包括評価制度のことで、傷病名や手術、処置等の内容に応じた診断群分類ごとに定められた1日当たりの定額点数を基本として医療費を計算する方法です。

当室では、D P Cの入院医療費決定にかかわる傷病名および ICD-10 コード、手術の有無、処置、加算等を退院時に点検し、管理課入院係と連携し精度の高い請求に取り組んでいます。

さらに当室と管理課入院係で入院医療費決定にかかわる傷病名および ICD-10 コードを主治医へ提案しています。そのためにこれらの業務を行う上に必要な知識の向上にも努めています。

またD P C対象病院は、匿名化した入院患者の診療情報・レセプト情報のデータを厚生労働省に提出することが義務づけられています。当室では、厚労省が実施する「D P Cの影響評価に係わる調査」の提出データを作成しています。D P Cデータは医療費分析だけでなく、診療プロセスの分析や疫学研究、医療の質を測るための尺度である臨床指標にも活用されており、小松病院は各種団体が行う医療政策科学研究や臨床指標事業にも協力しています。

### 2) スタッフ

三浦 哲也 (副部長)

伊藤 雅幸 (主任)

石井 桂(副主任)

3) 診療実績（2023年4月～2024年3月 歯科・緩和ケア内科除く）

MDCコード	MDC名称	集計
01	神経系疾患	54
02	眼科系疾患	195
03	耳鼻咽喉科系疾患	488
04	呼吸器系疾患	470
05	循環器系疾患	317
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	621
07	筋骨格系疾患	54
08	皮膚・皮下組織の疾患	161
09	乳房の疾患	16
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	180
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	341
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	2
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	57
14	新生児疾患、先天性奇形	3
15	小児疾患	7
16	外傷・熱傷・中毒	99
17	精神疾患	8
18	その他	173
総計		3246

4) 教育・研修・教育

院内勉強会、外部研修参加

<所属学会>

日本診療情報管理学会

5) 次年度の目標

- ・他部署の課題に対して提案し共に「質」の向上に取り組みます
- ・法人全体の「質」と「労働生産性の向上」を目指します

## 図 書 室

### 1) 概要

図書室機能として稼働しています。

図書室では、図書の受入、文献検索とその補助、複写文献の取り寄せ、購入の際の手続き等を主な業務としています。また、書籍の個人購入の際の取り次ぎも行っています。

購入書籍、新刊雑誌類は、受入れ処理の後、各部署で配架、利用、保管。

医学系書籍は米国国立医学図書館分類法（NLMC）に従って分類しています。

ほかに和雑誌のオンラインジャーナル「メディカルオンライン」を、文献検索については「医中誌 WEB」、看護系に特化した文献検索に「最新看護索引 WEB」を導入しています。

文献検索及びオンラインジャーナルの閲覧は院内のインターネットに接続されたどのコンピュータからも 24 時間利用可能です。医中誌 web の同時アクセス数は 1～2、最新看護索引 WEB は 1 です。メディカルオンラインは同時アクセス数、ダウンロード数ともに無制限です。

### 2) スタッフ

司書

佐竹 真紀



## 3) 診療実績 (令和5年4月～令和6年3月)

	件数
メディカルオンライン文献 DL	1900
他図書館等への文献複写依頼	43
年間購読雑誌	30
購入書籍	32

## 4) 次年度の課題・目標

- ・ より多く職員の皆様に利用していただけるように周知に努める
- ・ 特に外国文献の複写の謝絶を減らすよう取り組む



## 医療安全管理部門

### 1) 概要

- (1) 各部門の医療安全対策実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための方策を監督し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を管理する。
- (2) 医療安全委員会との連携し、院内研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いや、その他医療安全管理者の活動実績を管理する。
- (3) 医療安全対策に係る取組みの等を、法人全体の取組みを通して評価を行う。

### 2) スタッフ

責任者	齊藤病院長
看護部門責任者	槻館副院長
診療技術部門責任者	薄田副院長
小松病院	島山事務長代理
クリニックこまつ	山下事務長代理
医療安全管理者	長嶋副看護部長

### 2023 年度医療安全活動方針

#### 大目的 1：転倒転落を防止する

行動目的 1：転倒についての評価を行い、個別の対応を検討する。

行動目的 2：高齢者は転倒するということを前提に対応を検討する。

#### 大目的 2：薬剤関連のイベントを防止する

行動目的 1：患者の服薬確認へ支援を行う

(医療事故の再発防止に向けた提言第 15 号の提言 4 より)

行動目的 2：部署の配置薬と保管を適正化する

(医療事故の再発防止に向けた提言第 15 号の提言 5 より)

#### 大目的 3：抑制の状況が可視化できる取組みを始める

行動目的 1：抑制の状況が可視化できる仕組みの概念を形作る

## 3) イベントレポート件数 (R5年4月～R6年3月)

インシデントレベル	件数 (医療)	件数 (介護)
5	0	0
4b	1	0
4a	0	0
3b	1	0
3a	38	24
2	247	96
1	125	18
0	10	2
合計	422	140

## 4) 教育・研修等

- 2023年8月 医療安全全体学習会「2023年度 診療放射線の安全利用のための講習」
- 2023年10月 2023年度 医療安全地域連携ラウンド
- 2024年2月 転倒予防対策 松下記念病院 TQMセンター・理学療法士 進藤先生
- 2024年3月 全体学習会「医療安全」(医療ガス)

## 5) 次年度の課題・目標

- ・医療・介護の連携した安全文化の醸成
- ・医療安全管理者の育成

## 院内感染防止委員会

### 1) 概要

院内感染防止委員会では、医療関連感染の発生を予防し、患者さまへ安心・安全な医療を提供できることを目指しています。

現在、感染症専門医師、感染管理看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員など他職種が連携し、院内感染制御チーム（ICT）、抗菌薬適性使用支援チーム（AST）でより専門的に介入できるよう活躍しています。

病院職員の感染に対する意識向上を目的とし、研修やマニュアルの整備を行っています。

院内の各部門、各病棟とも連携し、環境整備、素早い感染アウトブレイクの発見と対応、職員の職業感染対策、検出菌の頻度や種類の監視などを行い、外部の感染サーベイランス事業にも参加しています。

### 2) スタッフ

- ・委員長（感染症専門医師以下 ICD） 酢谷副院長（医局）
- ・感染管理看護師（ICN） 中岡次長（看護部）
- ・事務局 中岡次長・轟次長（看護部）川越（臨床検査技師）  
三浦副部長（管理課）
  
- ・委員  
一番ヶ瀬総院長・酢谷副院長・林部長・南副部長・三栗医長  
原田医局員（医局）  
脇田部長・中岡次長・轟次長・久保次長・豊本次長（看護部）  
錦織部長・柿本・熊田（薬剤科）前田科長（臨床工学）中尾科長（歯科）  
新谷科長（栄養科）河上科長（リハビリ科）岡田主任（放射線科）  
林・川越（検査科）三浦副部長・入口副主任・金丸（管理課）  
下飼手主任・城野（医師事務補助室） 勝村次長代理（松柏苑）

### 3) 活動内容

活動内容		
委員会	1回/月	針刺し報告・抗菌薬AUD・手指消毒剤使用量・ JANISサーベイランス報告
ICTラウンド	1回/週	患者ラウンド・環境ラウンド
ASTラウンド	1回/週	対象患者カンファレンス
サーベイランス		JANISに参加（検査部門・入院部門・SSI）
ICT ニュース	1回/月発行	手指消毒剤使用量（払い出し量・使用量ランキング） 流行感染症について
環境 ラウンド	1回/年	加算連携施設ラウンド（松下記念病院より）
院内学習会	2回/年	全職員対象で開催
地域連携	4回/年	寝屋川市感染症ネットワークへの参加
	4回/年	松下記念病院合同カンファレンス

### 4) 学会・教育・研修等

- 2023年9月～2024年6月 感染管理認定看護師教育課程研修
- 2024年7月 日本環境感染学会 参加
- 関西感染症フォーラム 参加
- 2024年9月～院内感染対策講習会1 参加
- <院内勉強会>
  - ・新型コロナウイルス5類移行後の感染対策
  - ・N95マスクフィットテスト など

### 5) 次年度の課題・目標

- ・医療関連感染サーベイランスの強化
- ・抗菌薬適正使用の推進
- ・職員のスキルアップ
- ・コンサルテーションシステムの構築
- ・行政、保健所、地域医療機関との連携
- ・地域全体の包括的な感染対策推進

## 医療安全委員会

### 1) 概要

1. 各部門の医療安全対策実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための方策を監督し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を管理する。
2. 院内研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いや、その他医療安全管理者の活動実績を管理する。
3. 医療安全対策に係る取組みの等を、法人全体の取組みを通して評価を行う。
4. 総院長を委員長とした事故調査における基幹委員会で、院内における医療事故等の情報収集、医療事故防止のための具体的対策の検討及び推進、医療事故防止のための教育及び研修等の決定を行う。必要に応じて随時開催する。

### 2) スタッフ

委員長	齊藤病院長（医局）
医療安全管理者（兼任）	長嶋副看護部長（看護部）
医薬品安全管理責任者（兼任）	薄田副院長（本部）
医療機器安全管理責任者（兼任）	中島次長（臨床工学科）
医療放射線安全管理責任者（兼任）	大上副院長（医局）
コンプライアンス室（兼任）	三浦哲也副部長（管理部）
事務局	奈良 和輝（管理課）

### 2023 年度医療安全活動方針

#### 大目的 1：転倒転落を防止する

行動目的 1：転倒についての評価を行い、個別の対応を検討する。

行動目的 2：高齢者は転倒するということを前提に対応を検討する。

#### 大目的 2：薬剤関連のイベントを防止する

行動目的 1：患者の服薬確認へ支援を行う

（医療事故の再発防止に向けた提言第 15 号の提言 4 より）

行動目的 2：部署の配置薬と保管を適正化する

(医療事故の再発防止に向けた提言第 15 号の提言 5 より)

大目的 3 : 抑制の状況が可視化できる取り組みを始める

行動目的 1 : 抑制の状況が可視化できる仕組みの概念を形作る

3) イベントレポート件数 (R5 年 4 月～R6 年 3 月)

インシデントレベル	件数 (医療)	件数 (介護)
5	0	0
4b	1	0
4a	0	0
3b	1	0
3a	38	24
2	247	96
1	125	18
0	10	2
合計	422	140

4) 教育・研修等

- 2023 年 8 月 医療安全全体学習会「2023 年度 診療放射線の安全利用のための講習」
- 2023 年 10 月 2023 年度 医療安全地域連携ラウンド
- 2024 年 2 月 転倒予防対策 松下記念病院 TQM センター・理学療法士 進藤先生
- 2024 年 3 月 全体学習会「医療安全」(医療ガス)

5) 次年度の課題・目標

- ・インシデントレポート提出件数を増やす。(年 2000 件)
- ・インシデント内容を集計、調査し医療事故を減らす。
- ・迅速な情報共有システムの構築

# 医療安全セーフティマネージメント部会

## 1) 概要

1. 医療現場で発生した様々な出来事（イベント）の把握と分析を行うことで、医療事故を防止し安全な医療を提供することを目的とする。
2. 各部署に医療現場での事故防止や安全問題について中心的な役割を担うセーフティマネージャーを配置し、イベントレポートの情報を定期的に収集・分析の上、改善策等の検討を行い、その対応策を診療現場に迅速に徹底させる。
3. 各部門のセーフティマネージャーと連携を図り、事故防止の取り組みについて情報交換や連絡調整を行う。

## 2) スタッフ

委員長	齊藤病院長（医局）
医療安全管理者（兼任）	長嶋副看護部長（看護部）
医薬品安全管理責任者（兼任）	薄田副院長（本部）
医療機器安全管理責任者（兼任）	中島次長（臨床工学科）
医療放射線安全管理責任者（兼任）	大上副院長（医局）
コンプライアンス室（兼任）	三浦哲也副部長（管理部）
事務局	奈良（管理課）

### 委員（セーフティマネージャー）

植田副部長（医局）、田村部長（歯科医局）、槻館副院長（地域包括ケア事業部）、白井・山口（病院・クリこま外来）、垣内主任・中村・大西（手術室）、黒田・康・（3階病棟）、西・法原、（4階病棟）、石川・三山・山添（5階病棟）、堀・吉田（6階病棟）、小松・西（7階病棟）、東・五十嵐（ひまわり病棟）、岩先・（在宅）原内主任（松柏苑）、坂本（健康管理センター）、錦織部長・塚本（薬剤科）西口係長（検査科）、盛岡主任（放射線科）、村田係長・坂井副主任（栄養科）、中尾科長（歯科）、河上科長（リハビリ）、鈴坂（クリこま管理課）、森課長（DX推進室）柏倉・長岡（医師事務補助）、伊藤主任、石井副主任（コンプライアンス室）

2023 年度医療安全活動方針

大目的 1：転倒転落を防止する

行動目的 1：転倒についての評価を行い、個別の対応を検討する。

行動目的 2：高齢者は転倒するということを前提に対応を検討する。

大目的 2：薬剤関連のイベントを防止する

行動目的 1：患者の服薬確認へ支援を行う

(医療事故の再発防止に向けた提言第 15 号の提言 4 より)

行動目的 2：部署の配置薬と保管を適正化する

(医療事故の再発防止に向けた提言第 15 号の提言 5 より)

大目的 3：抑制の状況が可視化できる取り組みを始める

行動目的 1：抑制の状況が可視化できる仕組みの概念を形作る

3) イベントレポート件数 (R5 年 4 月～R6 年 3 月)

インシデントレベル	件数 (医療)	件数 (介護)
5	0	0
4b	1	0
4a	0	0
3b	1	0
3a	38	24
2	247	96
1	125	18
0	10	2
合計	422	140

4) 教育・研修等

- 2023 年 8 月 医療安全全体学習会「2023 年度 診療放射線の安全利用のための講習」
- 2023 年 10 月 2023 年度 医療安全地域連携ラウンド
- 2024 年 2 月 転倒予防対策 松下記念病院 TQM センター・理学療法士 進藤先生
- 2024 年 3 月 全体学習会「医療安全」(医療ガス)

5) 次年度の課題・目標

- ・インシデントレポート提出件数を増やす。(年 2000 件)
- ・インシデント内容を集計、調査し医療事故を減らす。
- ・迅速な情報共有システムの構築

## 医療ガス安全管理委員会

### 1) 概要

医療ガス安全管理委員会では、医療ガスの安全管理に関する検討と保守点検及び修理実績を委員が共有し実施責任者以外の現場での始業点検（患者に使用する際のアウトレット接続時の異常確認など）を徹底し安全な使用・管理を維持しながら、医療ガス使用時の安全性向上のため、職員研修などを通じて全職員に普及させることを目指しています。

また、災害時における医療ガスの対応についても当院の設備と現状を把握し対応が可能となるよう学習会等も計画しています。

### 2) スタッフ

- ・委員長 大上名誉副院長（医局 放射線科）
- ・医療ガス責任者 中島次長（臨床工学室）
- ・医療ガス実施責任者 深海（設備管理）
- ・事務局 森本部長（本部）
- ・委員 稲田部長（医局 麻酔科）・中岡次長（看護部）  
錦織部長・（薬剤科）・中尾科長（歯科）・新谷科長（栄養科）  
有山副部長（放射線科）・西口係長（検査科）・三浦副部長（管理課）
- ・外部委員 ㈱キンキ酸器 林課長

### 3) 活動内容

委員会 1回/年

- (1) 医療ガスの安全な運用のための設備管理について指導と確認。
- (2) 医療ガス使用時の安全性向上のため、職員への教育訓練の必要性の評価。
- (3) 医療ガス保守点検及び日常点検の記録と修繕箇所等の共有

### 4) 保守点検

- (1) 令和5年4月 医療ガス配管設備保守点検（機能点検）
- (2) 令和5年11月 医療ガス配管設備保守点検（外観点検）
- (3) 日常点検

### 5) 学会・教育・研修等

- 厚生労働省 医療ガス安全管理講習会 修了 中岡次長（看護部）
- 厚生労働省 医療ガス安全管理講習会 修了 中島次長（臨床工学室）

<院内全体学習会>

- 令和6年3月「医療ガスの基礎と安全な取り扱いについて」

### 6) 次年度の課題・目標

- ・災害時の対応マニュアルの作成と普及
- ・院内安全ラウンド（病棟アウトレット・マニホールド室など）
- ・外部研修会などへの積極的な参加

## 学術・図書委員会

### 1) 概要

院内学術研究発表の運営および協仁会職員を対象とした学習会の開催と管理を中心に活動しています。学習会の開催には、院内感染防止委員会・医療安全セーフティマネジメント委員会・褥創委員会のご協力の下で開催しています。

2023年度も各委員会のご協力を得て、バリエーションに富んだ学習会の開催ができました。また、前年度に立てた目標の一つ、学術・図書委員が講師を務める学習会も1回開催できました。2024年度も引き続き、各委員会と密な連携をとり充実した学習会の開催と学術・図書委員が講師を務める学習会の開催に取り組んで参ります。

### 2) 学術・図書委員

委員長：稲田 武文

委員：【医局】原田 【看護部】植村 後藤 【薬剤科】井岡 【検査科】三田  
 【放射線科】浦木 【リハビリ科】宮崎 【歯科】小松 【栄養科】日田  
 【管理課】有馬 【医局秘書】外山 【介護部】久 山下

### 3a) 学習会開催実績（令和5年4月～令和6年3月） 会場開催

開催日	主催 (委員会)	講師	対象者	学習会名	参加者数
2023/7/5	学術図書	MS ブレイン 田部知江子	全職員	個人情報保護と医療関連情報	17名
2023/7/19	学術図書	小松病院 浦木隆行	新入職員	報連相	38名
2023/9/20	学術図書	ポルトクオーレ喜田智也	全職員	コンセプチュアルスキル（抽象⇔具体化）	17名
2023/10/07	褥創	小松病院 リハビリ科	全職員	褥創予防のポジショニング	20名
2023/10/18	学術図書	ポルトクオーレ喜田智也	全職員	コンセプチュアルスキル（主観⇔客観）	20名
2023/2/7	学術図書	ポルトクオーレ喜田智也	全職員	コンセプチュアルスキル（大局⇔分析）	12名
2023/2/21	学術図書	ポルトクオーレ喜田智也	全職員	コンセプチュアルスキル（短期⇔長期）	21名
2024/3/6	MRI 安全	小松病院 浦木隆行	全職員	MRIの安全性 ～クエンチについて～	16名

### 3b) 学習会開催実績（令和5年4月～令和6年3月） 視聴期間付き視聴開催

視聴期間	主催	講師	対象者	学習会名	視聴者数
2023/9/3～	医療安全委員会	小松病院 盛岡弘充	放射線業務に 係る医療従事者	医療放射線に係る安全管理の ための従事者に対する研修	234名
2024/2/4～	感染予防委員会	ナーシングスキル	全職員	感染予防 ～感染対策の基本～	226名
2024/3/5～	感染予防委員会	ナーシングスキル	全職員	小規模病院・介護保険施設で即実践 新型コロナウイルスと感染対策	74名
2024/3/22～	医療安全委員会	近畿酸気	全職員	医療ガス	235名

### 3c) 院内学術研究発表 論文閲覧方式 2024/2/1 閲覧開始

発表部署	論文筆頭者	論文タイトル
クリニックこまつ看護部	蜂谷有梨	検査の事前説明に求められる看護師の糖尿病治療薬の知識
クリニック在宅医療室	小伏敦子	在宅医療・24時間緊急電話対応の実態調査と分析 電話対応へSBARコミュニケーションツールを活用
第二看護科（手術室）	大西恵子	手術室の出血量 ～計測方法統一に向けて～
第五看護科（五階病棟）	5階病棟一同	自己抜針防止肌着は、自己抜針を防止できるのか
ひまわり病棟	鬼塚千秋	終末期がん患者における褥創予防、悪化防止 ～プロペト使用による予防的スキンケア～
こまつデイサービスセンター	内田浩章	「どこに行くんや！」
こまつケアプランセンター	山下稚恵子	認知症夫婦の支援から ～高齢者詐欺被害に気づき地域と連携したケース～
松柏苑リハビリテーション科	西谷克己	松柏苑での誤嚥性肺炎防止への取り組み～その2～
検査科	三田美紗子	超音波検査における脂肪肝の評価
栄養科+地域連携室	新谷祐加	オンライン栄養指導の導入と効果の検討

### 4) 教育・研修

日本コミュニケーション能力検定協会の認定講習会

- ・2023/11/25 コミュニケーション2級認定講習会受講
- ・2023/12/16、12/17 コミュニケーション準1級認定講習会受講

### 5) 次年度の課題・目標

- ・院内学術研究発表を活性化し、協仁会の一大イベントにする。
- ・院内学術研究発表を部署一丸となって取り組んでもらえるような環境を整える。
- ・協仁会職員の中から学習会の講師を募る。

## 用度委員会

### 1) 概要

用度委員会では、法人内の用度の管理、保守、購買、業務委託が適切に行われるよう、またそれらを監視、企画、評価し成果に結びつけるため業務改善及びコストの適正化を継続的に実施していくことを目的としており、主に下記事項について審議する。

1. SPD 物品等の同種同効品の入替えによるサンプル評価とコスト削減
2. SPD 物品等の不動物品の回収及び定数在庫の見直し
3. 各部門より起案申請された設備・医療機器などの購入に対する評価と審議
4. 自部署における業務改善とコスト削減への取組み
5. 主要継続的取引先の選定と再評価

### 2) スタッフ

- ・委員長 大上名誉副院長（医局 放射線科）
- ・事務局 森本部長（本部）
- ・委員 中岡次長・垣内主任（看護部）・中島次長（臨床工学室）  
錦織部長・（薬剤科）・中尾科長（歯科）・新谷科長（栄養科）  
有山副部長（放射線科）・西口係長（検査科）・三浦副部長（管理課）
- ・外部委員 ㈱メディテイク野口部長・中島主任

## 3) 活動内容（直近1年間での主なコスト削減実績等）

委員会 6回/年

- (1) 廃棄物回収委託契約の見直しによる削減効果・・・約387万円/年
- (2) コピー機カウンター契約料の見直しによる削減効果・・・約238万円/年
- (3) エレベーター保守契約管理料見直しによる削減効果・・・約32万円/年
- (4) オペ室中材滅菌業務委託管理料見直しによる削減効果・・・約169万円/年
- (5) 清掃委託業務管理料見直しによる削減効果・・・約106万円/年
- (6) SPD 医療材料の同種同効品入替による削減効果・・・約332万円/年
- (7) 2022年度各部門主要取引先評価

## 4) 学会・教育・研修等

今年度は特になし

## 5) 次年度の課題・目標

- ・共同購入への参画による情報収集と成果の大きい同種同効品への切替え
- ・効率化や時短につながる業務改善とコスト削減への各部門からの積極的な提案
- ・光熱費節減に向けての取組（全事業所の照明LED化や節水・節電対策等）
- ・災害時の物品確保（不足分）ヘルメット・ライト・ウォータータンク等

## 褥瘡委員会

### 1) 概要

院内の褥瘡発生率 1%以下、2 人以下を目標に掲げ院内における褥瘡の発生予防や褥瘡発生後の処置、対策を行っております。

月 1 回の委員会開催に加え月 2 回病棟回診を施行し院内の褥瘡患者の現状を把握し早期に介入、治療を進めています。回診時には「DEDIGN-R」による評価を行います。

また患者に適切なマットの使用を促し、様々な種類のマットを管理し患者の状態に合わせて使用出来る様にしています。医師、看護師だけでなく他職種が委員会に所属しており意見交換を行うことで院内の褥瘡の発生率減少を目指しています。

院内での多くの症例に対して医師、薬剤師を中心に様々な治療を提案しており本年度は下記のような治療法を導入し症状改善に至った事例もありました。

- ・褥瘡領域におけるヨードホルムガーゼ導入
- ・牽引（テーピング固定）の導入
- ・レストンパッドの導入                      等

### 2) 所属スタッフ

委員長	板倉 良友先生
医局	小野 祥子先生
事務局	矢野 泉本
看護師	河上・菅・樫原・安井・田中・小林・奥野・池野・山添・ 大西・高田・板東・崎田・名和田・木原・小伏
リハビリ科	井口・中谷・
栄養科	田中
薬剤科	米谷

(敬称略)

## 3) 2023 年度院内発生件数

R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3
3	1	1	1	4	5	2	4	5	3	0	0

## 4) 教育・研修・教育

2023 年 3 月 5 日 日本褥瘡学会近畿地方学術集会

2023 年 6 月 24 日 薬剤師のわ学術集会（褥瘡）

2023 年 8 月 6 日 大阪医科薬科大学褥瘡治療実技セミナー

2023 年 9 月 1-2 日 日本褥瘡学会学術集会

2023 年 9 月 23 日 八尾市薬剤師会在宅医療研修会

2023 年 10 月 11 日 院内全体学習会

「褥瘡の薬剤滞留問題とその解決法」（薬剤科）

「褥瘡予防のポジショニング」（リハ科）

2024 年 1 月 21 日 神戸薬科大学第 18 回症例検討会（褥瘡）

2024 年 2 月 17 日 薬剤師のわ学術集会（褥瘡）

2024 年 3 月 3 日 日本褥瘡学会近畿地方会学術集会

2024 年 3 月 19 日 日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会

## 5) 次年度の課題・目標

- ・引き続き院内発生率 1%以下を目指す
- ・院内で褥瘡の理解度、認知度を上げる

## 健康管理センター

### 1) 概要

健康管理センターでは、生活習慣病の予防、がんの早期発見、健康維持と増進を目的とし、人間ドック、生活習慣病健診、定期健診、特定健診、各種がん検診（乳がん・大腸がん・肺がん・胃がんなど）、特定保健指導、特殊健康診断（有機溶剤、特定化学物質、じん肺、放射線業務など）、健診バスを利用した企業健診・学校健診、産業医の業務委託契約など健康診断に係る業務を行っています。

健診の受診者数も年々増加しており、人間ドック(脳ドック含む)3,542人(昨年比101%)、生活習慣病健診8,014人(〃107%)、定期健診6,492人(〃104%)、特定健診2,274人(〃107%)、健診全数26,177人(〃102%)となっています。2020年度から比較した総受診者数26,171(〃121%)となっています。

併設のクリニックこまつに設置された健診フォロー内科外来等に、健診当日より受診勧奨を行い、年間1,690人(〃128%)が健診からの案内で受診に至っています。健診後のフォロー対応にも積極的に取り組んでいます。

### 2) スタッフ

小松病院副院長（健康管理センター長）河嶋 亨（人間ドック健診指導医・専門医）、  
河嶋わかお（人間ドック健診指導医・専門医、産業医）、  
三輪 直子（人間ドック健診専門医、産業医）、  
福間 博和（人間ドック健診専門医、産業医）、  
高原里永子（人間ドック健診専門医）

保健師 2名

看護師 7名

臨床検査技師 3名

事務 22名



## 3) 健診実績 (2023年4月～2024年3月)

健診種類	件数
生活習慣病健診	8,014
定期健診	6,492
特定健診	3,793
人間ドック (脳ドック含む)	3,542
特殊健診	594
胃部内視鏡検査 (経口&経鼻)	1,677
寝屋川市肺がん検診 (胸部 x 線検査)	1,586
寝屋川市大腸がん検診 (便潜血 2 回法)	1,481
寝屋川市乳がん検診 (マンモグラフィ検査)	1,006
寝屋川市胃がん検診 (胃部 x 線検査)	459

## 4) 教育・研修・

## ＜施設認定＞

日本人間ドック・予防医学会健診施設機能評価認定

日本人間ドック・予防医学会健診専門医研修施設認定

## ＜資格・認定＞

人間ドック健診指導医 2 名 人間ドック健診専門医 3 名 認定産業医 3 名

人間ドック健診情報管理指導士認定者 (人間ドックアドバイザー) 4 名

## ＜主な学習会＞

院外 第 64 回 日本人間ドック予防医学会 学術大会参加 第 96 回 日本産業衛生学会  
学術大会参加 大阪産業保健総合支援センター 産業保健 研修参加

院内 B L S 講習会 感染学習会、医療安全学習会、接遇研修会

他院内 e-ラーニング受講

## 5) 次年度の課題・目標

- ・受診者数増への安全・快適な受診対応を継続する。
- ・デジタルツールやシステムを活用し、業務のスピードと正確性の向上を目指す。
- ・受診者増に向け、受診者からのフィードバックを収集し品質向上・業務改善を図る。
- ・産業医巡視スタッフの教育を行い、巡視の品質を高め、安全で健康的な職場環境の維持を目指す。
- ・職員健康管理～職員ひとりひとりが心身共に健康で就業して頂くために健診事後措置の取り組みを継続する。

# 関連施設

## クリニックこまつ

### 1) 概要

2023年12月1日をもって、設立20周年を迎えました。

受診者数は、平日で平均580~620名と、多くの患者さんに受診していただいています。

専門外来の体制も厚くなり、様々な疾患に対し診療が可能な体制になっています。

診療時間は、月曜日~金曜日は、午前診（9時~11時30分）、午後診（予約診）、

夜診（17時30分~19時30分）、土曜日は、午前診（9時~11時30分）です。

（日曜日午前診9時~11時30分及び時間外診療・救急は小松病院で行っています。）

2017年度から、祝日の午前診（9時~11時30分）を、一部診療科（内科・小児科・耳鼻咽喉科・泌尿器科）で行っており、地域の皆様に、認識して頂いております。

外来では、患者さんと医師をはじめとする医療従事者が話し合い、診療方針や服薬管理、栄養指導などを行い、今よりも良い状態で、次の外来診察日に来院できるように、職員が一丸となって患者さんに説明、支援することを心掛けています。

さらに、多くの患者さんに検査や予約についてより分かりやすくご理解いただけるように、診察室に看護師のほか、外来クラークを配置しています。

また、CT、MRI、マンモグラフィをはじめ、超音波検査（心臓・腹部・頸部・甲状腺・乳腺・頸動脈・下肢動脈・下肢静脈・腎動脈など）、脳波検査、動脈硬化検査、上部・下部内視鏡検査（経鼻内視鏡含む）などの検査機器を使用し、質が高く、安心・安全な医療を提供できるように努めています。

### 2) スタッフ

所長	: 甲斐 香
所長代行	: 栗岡 聡一
医師	: 34名
看護師	: 44名
眼科検査技師	: 7名
クラーク	: 28名
シュライバー	: 6名
事務	: 35名

## 3) 実績

	患者延べ人数	1日平均患者数	稼働日数
2023年4月	14225	569.0	25
2023年5月	14456	602.3	24
2023年6月	15905	611.7	26
2023年7月	14990	576.5	26
2023年8月	15672	580.4	27
2023年9月	15313	588.9	26
2023年10月	15634	601.3	26
2023年11月	15178	583.8	26
2023年12月	15389	591.8	26
2024年1月	14488	557.2	26
2024年2月	14451	578.0	25
2024年3月	14491	557.3	26

## 4) 専門外来／教育・研修

高血圧外来（高血圧治療アプリ導入）

禁煙外来（ニコチン補助治療薬使用）

睡眠時無呼吸外来（持続陽圧呼吸療法導入）

生活習慣病外来

糖尿病教室

## 5) 次年度の課題・目標

- ・すべての人が“かかりたい”と思える医療を提供できるクリニックを目指します。
- ・地域の医療機関から安心して患者様をご紹介いただけるクリニックを目指します。
- ・待ち時間の短縮、よりスムーズな診察を可能とするため診療予約の拡大を図ります。

## 在宅医療室

### 1) 概要

在宅医療室は、「地域住民に心から手を差し伸べる、思いやりのある医療を提供する」ことを理念に地域医療に取り組んでいます。患者・利用者様、一人一人が望む療養場所で生活を続けられるように、柔軟に対応しております。

診療は、一般内科、緩和ケア科、泌尿器科、整形外科、皮膚科とそれぞれの専門性を発揮しながら、対応しております。また、医師・看護師共に24時間体制をとっており、患者・家族様の安心・信頼に繋がるよう努めております。そして、疾患の進行状況に応じた意思決定支援を行い、人生の最終章にふさわしいケアを目指しています。

### 2) スタッフ

医師	11名
看護師	12名
事務	6名

### 3) 訪問診療および対象患者の特徴

	件数			
紹介医療機関の割合	法人内：105件		他院：288件	
支援施設の特徴	27施設			
	・グループホーム		・高齢者住宅	
	・介護付き有料老人ホーム		・ナーシングホーム	
	・サービス付き高齢者向け住宅		・ケアハウス	
	・住宅型有料老人ホーム			
看取り件数	164件			
対象患者の介護度割合	要支援1	0.7%	要介護3	17%
	要支援2	0.7%	要介護4	26%
	要介護1	14%	要介護5	21%
	要介護2	20%		

#### 4) 教育・研修

教育：部署内学習会 院内研修

研修：大阪府看護協会研修

#### 5) 次年度の課題・目標

1. 在宅・訪問看護ステーションと協働し、協仁会地域包括ケア事業部のシステムを構築します
2. 寝屋川市に留まらず、他市への増患強化します
3. 施設、他訪問看護ステーションとの関り強化と教育、指導を推進します

## 介護老人保健施設 松柏苑

### 1) 概要

・入所：100名（3階・4階 各フロア50床）

令和5年度の平均稼働者数：98.52名

・通所リハビリテーション：1日定員60名

令和5年度の平均稼働者数：45.49名

2018年9月より在宅復帰超強化型へ移行し医療と介護の連携を常に視野をおきながら、施設と在宅をつなぐ接点として重要な役割を担っています。

令和5年5月8日より、コロナ感染症5類に移行され、コロナ中には行えなかった行事や対面面会の再開となりましたが、まだまだ、利用者・家族ともに不安を感じる日々が続いており、コロナ前のように安心して過ごしていただけるように努めていきたいと思っております。

介護老人保健施設では、可能な限り自立した日常生活を送ることができるように、リハビリテーションや必要な医療・介護などを提供しています。地域に開かれた施設であり、また地域住民の介護相談所であることから、介護サービスを有効に利用していただけるように意識して参りました。引き続き介護サービスの効率よい活用を提供していかねばなりません。通所リハビリテーションでは、リハビリやレクリエーション、入浴や食事・送迎を昨年と同様に提供しています。短時間利用を利用される利用者が増えており、ニーズに合わせて積極的に受け入れを行っています。

### 2) スタッフ

施設長	板倉 良友	理学療法士	4名
看護師・准看護師	13名	作業療法士	5名
介護福祉士	20名	言語聴覚士	1名
介護士	19名	管理栄養士	2名
支援相談員	1名	事務員	2名
介護支援専門員	1名	運転業務	4名

## 3) 入退居実績（令和5年4月～令和6年3月）

○総入所者数（ショートステイは除く）	171名
（入所内訳）	
在宅86名 ・ 小松病院50名 ・ 他病院34名	
サ高住1名	
平均介護度	3.35
○総退所者数（ショートステイは除く）	179名
（退所内訳）	
在宅75名 ・ 小松病院55名 ・ 看取り7名 ・ 特養18名	95.84%
他病院5名 ・ グループホーム5名 ・ 有料老人ホーム14名	
平均介護度	3.68

## 4) 行事・活動内容

4月：お花見    5月：端午の節句    7月：七夕    8月：夏祭り    9月敬老会  
 10月：運動会    12月クリスマス会    1月：おせち料理・七草粥  
 2月：節分    3月：ひな祭り    など

## 5) 次年度の課題・目標

○稼働 入所 100・通所 60 を目指しスタッフ皆が経営参画意識をもって日々の業務を行う

○コロナの影響により地域交流活動が実施できなかった為、地域交流を積極的に実施していく。

○介護保険法改定に伴い、新たな加算を取得していく。

○人材育成への取り組み

## グループホームなごやか

### 1) 概要

平成 13 年 8 月に開設し、今年で 23 年目を迎えます。

グループホームなごやかは 1 フロア 9 名、全体で 3 フロア 合計 27 名が生活されています。グループホームとは『認知症対応型共同生活介護』という地域密着型サービスです。入居されている方は、認知症専門研修を受けたスタッフと炊事・洗濯・掃除などを一緒に行い、出来るだけ家庭に近い環境でそれぞれの役割・生きがいをもって生活を送られています。

小松病院に併設されておりますので、定期的な受診はもちろん、急な体調変化があった場合でも迅速に対応させて頂けます。ご本人・ご家族様のご要望により、看取り介護もさせて頂いています。

年間を通して季節の行事や、レクリエーション等の余暇活動に力を入れ「楽しみ」が提供できるようスタッフ皆で日々努力しています。今後も住み慣れた地域で笑顔あふれるなごやかな暮らしを送って頂けるよう、より良い介護を提供していきます。

### 2) スタッフ

○管理者：四田 麻里子

○フロアリーダー：2F 宮崎 亜佐美、3F 住田 志帆、4F 竹下 裕一

○常勤介護スタッフ：斎藤 友太

○パート介護スタッフ：川久保照代、辻本涼子、森沙由美、井上宏江、吉川由紀、  
大西富子、小賀美和子、足立 、笠原恵子、宮崎豊美  
中多津子、田中佑規

○パート看護師：三浦 雪美

○パート調理スタッフ：上田幸枝、井上恭枝

○派遣スタッフ：須藤 明美

## 3) 入退居実績（令和5年4月～令和6年3月）

総入居者数（ショートステイは除く）	10名
総退居者数（ショートステイは除く）	9名
ショートステイ利用数	16件
平均入居者数	25.88名
平均介護度	2.5
平均稼働率	95.84%

## 4) 行事・活動内容

4月：お花見    5月：散歩    7月：七夕    8月夏祭り    9月敬老会  
 10月：運動会    12月クリスマス会    1月書初大会    など

コロナの為、地域活動への参加やご家族様の面会・外出外泊制限等があり、人との関わりの機会は縮小せざるを得ない状況となっておりますが、スタッフ皆で工夫しながら行事を行っています。また、そのご様子はお便りとしてご家族様へお伝えしています。

## 5) 次年度の課題・目標

- 入居者一人ひとりに合わせた支援を行い生き生きとした生活が送れるようなサービスを提供する
- 稼働100%を目指しスタッフ皆が経営参画意識をもって日々の業務を行う
- 働きやすい職場環境を作る
- リーダーを育成する

## グループホーム第2なごやか

### 1) 概要

平成18年3月1日に開設され17年がたちました。

2階建て、2ユニット、1フロア9室の全室個室、定員は18名。

入居条件は寝屋川市に在住している方で医師より認知症の診断を受けていること、要支援2以上の要介護認定を受けておられる方です。生活保護の指定を受けているため、生活保護を受給されている方も入居可能です(令和5年度生活保護受給者受け入れ者数10名)。認知症高齢者が共同生活を送るための施設です。

### 特徴

掃除・洗濯・お皿洗い・お盆拭き等、入居者様が出来ることを一緒に行い、日々の生活の中で役割を持って自分らしく生活を送って頂けるように、さまざまな場面で自己決定が出来るように支援を行っています。

### 施設行事・活動

初詣・お花見・七夕・夏祭り・花火・敬老会・運動会・クリスマス会・節分・手作りランチやおやつ・お誕生日会・お庭でのお茶会・散歩・買い物・隙間時間に作品作り・お庭の手入れや種まきを行い季節のお花を植えています。コロナ渦で中止していた地域行事やボランティア受け入れも再開。3月には4年ぶりに地域の方々と一緒に第2なごやか祭りを開催することができました。

### 2) 職員構成

管理者兼ケアマネジャー：小井手 裕子

計画作成担当者：2名

介護職員：12名

日勤 遅出 夜勤の勤務体制で24時間対応

## 3) 令和5年度

実務実績	件数
平均入居者数	17.42
平均要介護度	3.1
看取り件数	2件
退居者数	2名
入居者数	3名
ショートステイ	1名
入院件数	5件

## 診療実績

令和5年9月より、2回/月 訪問看護師による訪問開始。入居者様の現病歴や日々の体調の共有を行い助言や指導を頂いています。

また、2回/月 クリニックこまつ在宅医療室より入居者全員が定期往診を受けており、24時間連絡が取れる体制が整えられていることで、入居されている方やご家族様に安心して日々の生活を送っていただいています。

## 4) 教育・研修・研究

**教育・研修**

外部への職員研修をはじめ、なごやか・第2なごやか・第3なごやか合同で3施設の職員向け勉強会を3回/年実施。

また、当部署内でも1回/月学習会を行い、医療・介護の知識・技術向上を図り専門性を高めています。

**研究**

院内学術研究発表

認知症への理解 BPSD 行動のある入居様へのアプローチ  
～その人らしく生活を送るために～を発表

院内認定資格 自立支援介護更新課題研究・筆記テストを有資格者全員更新

## 5) 次年度の課題・目標

- ・各部署との連携
- ・入居者様と地域の方との交流
- ・空床時のショートステイ利用

## 第3 なごやか

### 1) 概要

H28年8月1日四條畷市に開設された認知症対応型共同生活介護施設グループホーム第3 なごやかは、1フロア9室、2ユニットの全18室があり、認知症の高齢者が住み慣れた地域で共同生活をされています。入居の条件として、医師から認知症と診断された要支援2以上の要介護認定を受けておられる方が対象となります。

小規模で家庭的な環境のなかで、簡単なお手伝いや掃除、花の水遣り、町内の散歩などスタッフと一緒にしています。出来る限り自立した生活を支援させて頂くにあたり、法人の取り組みでもある「自立支援介護」を取り入れ、水分・食事・運動・排泄の基本ケアを軸に、入居者様に生き生きとした生活を送って頂ける様に取り組んでいます。また、年間通して花見や夏祭りなどの季節ごとのレクリエーションも積極的に取り入れ、日々の生活に張りを持って頂けるよう取り組んでいます。

入退院がある中で、満床運営は維持できていましたが、入院時の居室をショートステイとして利用してもらう事は、出来ませんでした。待機者3名は獲得する事が出来ました。

### 2) スタッフ

施設管理者	中島 晴子
介護支援専門員	津田 之子
介護職員	12名
調理担当	3名

## 3) 実績（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

項目	件数
平均入居者数	17.9名
新規入居者数	1名
退居者数	1名
平均要介護度	2.8
入院件数	8件

## 4) 教育・研修・教育

- ・「認知症介護実践者研修」「認知症介護リーダー研修」の外部への職員研修
- ・法人内認定資格、『自立支援介護認定資格』取得者2名

## &lt;研究活動&gt;

- ・院内研究発表
- ・自立支援介護
- ・避難訓練（2回/年）

## &lt;院内勉強会&gt;

- ・人権
- ・看取り介護
- ・身体拘束的適正化（2回/年）
- ・認知症（2回/年）
- ・倫理法令順守
- ・虐待防止
- ・個人情報保護法
- ・感染、食中毒

## 5) 次年度の課題・目標

- ・満床運営の持続
- ・入院時、ショートステイ利用稼働
- ・地域との交流
- ・自立支援介護の啓発活動

## 訪問看護ステーションこまつ

### 1) 概要

訪問看護ステーションこまつは今年で開設 25 年目になります。

私達は、自宅や施設（条件があります）でご利用様が安心して療養して頂けるよう、看護師（24 時間体制可能）やセラピスト（リハビリスタッフ）が訪問して、以下の看護サービスを提供させて頂いています。

- ・病状の観察（病気や障がいの状態、血圧、体温、脈拍などのチェック、異常の早期発見など）
- ・内服管理・体重管理
- ・医療処置（点滴、カテーテル管理、胃ろう、尿留置カテーテル、インシュリン注射）
- ・在宅でのリハビリテーション（拘縮予防、機能維持および回復、嚥下訓練など）
- ・医療機器の管理（在宅酸素、人工呼吸器、痰吸引など）
- ・床ずれ予防、処置（床ずれ防止の工夫や指導、床ずれの手当て）
- ・在宅療養のお世話（身体の清拭、洗髪、入浴介助、食事や排泄の介助・指導）
- ・ターミナルケア（終末期や癌末期を自宅で過ごせるように支援）
- ・介護予防（健康管理、低栄養や運動機能低下を防ぐアドバイスなど）
- ・ご利用者ご家族等への介護支援・相談（療養上の心配事の相談、対応方法の助言、介護方法の助言、福祉サービスの助言など）

ご利用者の思いを中心に、ケアマネージャをはじめ様々なサービス提供者と連携をとりながら、個々の能力・状態に合わせた適切な看護の提供を行い、必要な資源を活用し、QOL が高められることを目指しています。

信頼関係を大切に、在宅療養をされる方々を幅広く支援しています。

### 2) スタッフ

管理者 出口佐土美（看護師）

スタッフ 看護師 5 名

セラピスト 4 名（理学療法士）

事務 1 名

## 3) 令和5年度目標

## 1、訪問看護の質の向上

- ①統一した看護の提供 ②看護計画の定期的見直し、記録の充実、アセスメント力の強化 ③安心・安全な看護の提供 ④自己啓発

## 2、事業の安定化

- ①目標利用者数維持 ②加算算定条件クリア ③訪問空き枠の有効利用  
④業務改善 ⑤労働生産性向上 ⑥経費削減

## 3、地域との連携強化

- ①蜜な情報交換 ②接遇 ③地域活動

## 4) 訪問実績

	手技	件数
2022年度	介護保険訪問件数	11,045
2022年度	医療保険訪問件数	1,656
2023年度	介護保険訪問件数	11,344
2023年度	医療保険訪問件数	1,617

## 5) 活動報告

- ①全利用者へ、全スタッフが交代で訪問することで、利用者の情報交換が速やかに行われ、スタッフの急な休みにも対応でき、適切な看護を提供することが出来た
- ②年に一度、患者満足度調査を行い、利用者のニーズを把握し看護の改善・質の向上へつなげた
- ③加算算定の条件（看護師：他職員＝6：4）をクリアすることができず、加算の取り下げを行った。
- ④他職種との連携を蜜に図り、地域包括支援活動を行った
- ⑤寝屋川市高齢介護室と連携をとり、地域の活動に参加した

## 6) 考察

毎朝のミーティングを行うことで、全スタッフが全患者の症例に意識をもち、フィジカルアセスメント、評価することで注意喚起ができ、より個別性のある看護が提供できている。また、各スタッフのレベルにあわせた研修テーマを提案し、参加出来る環境作りを行い、看護の質の担保に留意できた。利用者アンケートでは、高評価を得ているが、指摘された意見は真摯に受け止め、看護の質の向上に努めていく。

加算条件をクリアできず、減収となった。黒字は維持できているが、月ごとにバラつきがある為（入退院が多いため）、安定した黒字経営が必要である。地域で選ばれるステーションを維持する為に、地域の多職種と積極的な相談報告はできた。

## 7) 次年度の課題

- ①訪問看護の質の向上
- ②事業収支の安定した黒字化
- ③地域包括支援活動

## こまつケアプランセンター

### 1) 概要

ご本人とご家族のご希望を踏まえながら、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるよう連絡、調整を行いケアプランの作成や介護に関する全般的な相談を行っています。医療法人協仁会グループをはじめとする医療と介護の連携を図り、ご利用者が住み慣れた地域で自分らしく安心のある生活を送って頂けるよう心掛けています。

また、当事業所は営業時間外、休業日については携帯電話により緊急連絡先を設け対応しており、特定事業所加算Ⅰの算定要件を満たす事業所となっており、中重度や支援困難ケースへの積極的な対応が必要とされているため、専門性の高い人材を確保し、質の高いケアマネジメントが実施できる体制を整備しています。

#### 提供する居宅介護支援内容

1. 居宅サービス計画
2. 居宅サービス事業者との連絡調整
3. サービス実施状況の把握、評価
4. 利用者状況把握
5. 給付管理
6. 認定申請に対する代行
7. 相談業務

令和5年度の給付管理数（ケアプラン）については目標2388件/年間（199件/月）を取り組み、令和5年度は2316件で令和4年度より0.15%の微増、毎月平均10.5件の新規相談・依頼が協仁会グループの在宅診療や病院・老健施設の退院・退所が57.1%を占め、連携が強みと考えます。ご家族や他病院、地域包括等からの依頼が42.9%となっています。退院・退所加算については、令和5年度は60件で令和4年度より25%増えています。今後も医療機関等と多職種連携・協働し、課題解決に向けた質の高いサービス提供を目指します。

## 2) スタッフ

管理者 倉田まさる 主任介護支援専門員

主任介護支援専門員 4名

介護支援専門員 1名

## 3) 実績（令和5年4月～令和6年3月）

	件数
給付管理数	2316
退院退所加算Ⅰ	50
退院退所加算Ⅱ	10
入院時連携加算Ⅰ	107
入院時連携加算Ⅱ	10
ターミナルケアマネジメント加算	13
通院時情報連携加算	8
代行申請	150

## 4) 教育・研修・教育

<研修> 大阪府主任介護支援専門員研修

ネットワーク型地域ケア会議・他法人の居宅との協定の事例検討会

おひとりさま・おふたりさまの終活～備えとしての任意後見

難病の理解を深めよう

看取り研修～「死」から「生」を学ぶ

他機関と繋がろう～困難事例から混乱事例にならない為に～

みんなで防ごう、高齢者虐待

薬剤師による居宅療養管理指導について

<教育> ネットワーク型地域ケア会議・他法人の居宅との協定の事例検討会

利用者情報・制度について等の共有会議（週1回）部署内

## 5) 次年度の課題・目標

- ・給付管理数の増加、事業計画の達成
- ・医療機関や地域包括支援センター、地域住民等と関わり連携を強化
- ・タブレット端末や音声入力ソフト等を活用し、事務作業時間の軽減

# こまつデイサービスセンター

## 1) 概要

平成 16 年 8 月 1 日に小松病院の併設型として開設された通所介護施設です。利用者定員は一般通所介護 35 名（うち総合事業 5 名）認知症対応型通所介護 12 名で運営しています。病院併設である為、デイサービス利用時に体調不良を起こした際にも病院と連携を図り、迅速な対応が可能でありご利用者・ご家族・ケアマネージャーからも安心して利用できるデイサービスとして評価頂いています。

## 2) スタッフ構成

管理者兼生活相談員 1 名	生活相談員 1 名	看護師 2 名
あん摩マッサージ師 1 名	理学療法士 2 名	介護職員 8 名

## 3) 特徴

デイサービスを利用されている方は入浴を希望される方が多く、一般浴・個浴車椅子対応のリフト浴・寝たまま入浴の出来る機械浴など、4 種類の浴槽を用意し要支援 1～要介護 5 の方まで幅広い対象の方にご利用いただいています。

あらゆる感染症や自然災害などに対する警戒を緩めることは出来ませんが、この間に受け入れを中断せざるを得なくなったボランティアの受け入れを再開し、地域活動など従来行ってきたことを可能な範囲で継続しながら地域と連携することで地域共生の拠点となることを目指しています。

また「長時間の利用がしんどい」「お風呂だけ入りたい」「昼からリハビリだけしたい」等ご利用者さんの多様な希望に合わせ短時間の利用など細やかな個別対応を行っています。

リハビリでは理学療法士による歩行訓練・可動域訓練・筋力維持など行っており、AIを活用したトルト機器を用いて歩行能力測定を3か月に一度実施しています。歩行バランスや速度など分析しそれを元にリハビリを行っています。

令和6年5月より『Instagram』を開始しSNSを通して活動状況を発信しています。今後も継続し、より多くの方にこまつデイサービスを知っていただけるように工夫していきます。

#### 4) 教育・研修

外部や介護事業部全体会議内での職員研修をはじめ、当部署内のなかで学習会を行い、医療・介護の知識を高め共有することに努めています。

#### 5) 令和5年度利用状況

一般通所介護      上段（月延べ利用数）      下段（一日あたりの利用者平均数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
575	623	596	566	564	556	584	587	570	504	517	532
23.0	23.1	22.9	21.8	20.9	21.4	22.5	22.6	21.9	18.7	20.7	20.5

認知症対応型通所介護      上段（月延べ利用数）      下段（一日あたりの利用者平均数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
156	174	155	153	152	168	141	139	143	143	125	150
5.2	5.6	5.2	4.9	4.9	5.6	4.5	4.6	4.6	4.6	4.3	4.8

## 保育課（病児保育所つくし）

### 1) 概要

近年共働き家庭や核家族の増加に伴い、子どもの急病で仕事を休むことができない場合や近くに代わりにみてもらえる人がいないという状況が増えており病児保育へのニーズが高まっています。

病児保育所は病気の子どもが安心・安全に過ごせるようにするとともに保護者のニーズに応え子育てを支援するという重大な社会的役割を担っています。

2023年は延べ1199名のお子さまにご利用いただきました。コロナ禍の影響が8月末からインフルエンザが流行するという異例の年となり上気道炎（432名）に次ぐ248名のインフルエンザでの利用がありました。その他、よく利用された病種は気管支炎（103名）・胃腸炎（69名）・咽頭アデノ（69名）です。

年齢別では1歳児の利用が最も多く（322名）、次いで2歳児（250名）と乳幼児の利用が中心となっています。

当施設では子育て支援の一環として年間3～4回、寝屋川市内の保育園・こども園・幼稚園にお便りや利用案内を発送しています。また、寝屋川市内の子育て施設に訪問し、お便りの掲示や利用案内を設置していただいております。子育て中の保護者さまにも当施設を広く知っていただく機会を提供し、新規利用者さまも139名と多くの方々にご利用いただきました。

往診・急変時には小児科と連携し適切な対応をしています。

### 2) スタッフ

- ・常勤保育士 2名
- ・非常勤保育士 2名



## 3) 実績

## 2023年度 お預かりした病種

上気道炎	蕁麻疹	流行性耳下腺炎	インフルエンザウイルス A
咽頭炎	手足口病	鼻咽頭炎	インフルエンザウイルス B
扁桃炎	RS ウイルス	伝染性膿痂疹	ノロウイルス
気管支炎	クループ症候群	咽頭アデノ	便アデノ
喘息性気管支炎	胃腸炎	ウイルス感染症	マイコプラズマ肺炎
溶連菌感染症	骨折	ヘルパンギーナ	ヒトメタニューモウイルス

## 年齢別利用者数



## 4) 教育・研修

- ・ こども家庭庁主催 Web 研修  
「教育・保育事故の防止に向けたセミナー」
- ・ 大阪府主催 Web 研修  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領研修会」  
「保護者に対する子育て支援について」  
「ヤングケアラーの実態と支援」
- ・ 全国病児保育協議会 大阪支部 定例会（大阪旭こども病院にて）
- ・ 当院小児科主催 勉強会（毎月第4金曜日）

## 5) 次年度の課題・目標

- ・ 病児保育を実施するうえで必要な知識を再確認し、保育の質を向上させるために病児保育専門士の資格取得を目指す
- ・ お子さまの急変や病棟保育にも対応できる保育士の育成と増員
- ・ 寝屋川市と連携し地域の子育て支援施設として保護者支援も並行して行う

# 協仁会 各種プロジェクト

## 自立支援介護推進プロジェクト

### 1) 概要

自立支援介護とは、『身体的、精神的、社会的な自立を、介護という方法で支援していくこと』と定義されています。一般的にこれまでのイメージでは、『介護はお世話するもの』でした。しかし、超少子高齢化社会に向かう中で、『介護で自立を促していく』といった考え方が徐々に広まりました。

こうした中で、このプロジェクトでは、その基本となる4つのケア（水分・食事・排泄・運動）について2020年より取り組んでおります。

その後、『自立支援介護の知識を広めること』、『リーダー的役割を果たすこと』、『実践効果をあげること』ができる人材を育成する為に、2021年に院内認定制度が発足しました。

介護事業部をはじめ、法人職員の意識改革を行いながら、「高齢者が、地域で尊厳を持って生活できる」ことを目指し、活動しています。



## 2) プロジェクトメンバー

総 院 長 : 一番ヶ瀬明  
 副 院 長 : 槻館留美  
 松 柏 苑 : 田中あゆみ 宮崎三世  
 グループホーム : 四田麻里子 (なごやか) 小井出裕子 (第2 なごやか) 中島晴子 (第3 なごやか)  
 事 務 局 : 村上早百合 河上侑磨  
 外 部 講 師 : 李智子

(日本自立支援介護・パワーリハ学会認定自立支援介護講師/

東大阪大学短期大学部介護福祉学科非常勤講師/医療福祉学博士/介護福祉士/)

## 3) 取り組み実績 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

水分摂取量 (施設平均)	取り組み前	取り組み後 (令和5年度)
松柏苑療養棟 3F	986mL	1071mL
松柏苑療養棟 4F	907mL	1045mL
なごやか	1264mL	1350mL
第2 なごやか	1607mL	1778mL
第3 なごやか	1689mL	1821mL

## 4) 教育・研修・教育

- 院内認定資格制度 (自立支援介護) …資格取得者 39 名 (介護施設 26 名 病院 13 名)
- 自立支援介護プロジェクト会議 (1 回/月)
- 第 22 回 日本自立支援介護パワーリハ学術大会参加

## 5) 次年度の課題・目標

## 【各施設目標】

- ・各施設 平均水分摂取量 1500mL 以上を目標とする
- ・自立支援介護の取り組みを業務化する

## 【事務局目標】

- ・院内認定資格制度のカリキュラム内容を改良し、質向上に努める
- ・業務化に向けて、各施設のサポートをする
- ・自立支援介護パワーリハ学術大会参加 (2024 年 5 月)

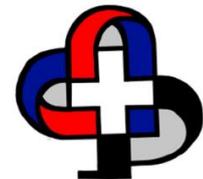
# 心不全高血圧プロジェクト

## 1) 概要

2022年4月21日（木）協仁会において、心不全高血圧プロジェクトのキックオフミーティングが開催されました。

少子高齢化社会が深刻に推移し、働く若い世代が減少することが顕著に現れる2040年に向けて、協仁会が理事長方針として掲げてきた『患者利用者基点の医療・看護・介護』を実践する。そのために、今できることを行う事が重要であることが確認された瞬間でもありました。そして、それ以前に社会現象として現れる『心不全パンデミック』に対応するため、主に高血圧に焦点をあてた活動や、心不全そのものに対応する事も決まりました。

それらのこと等を通じて、『協仁会に関わる患者さん・利用者さんの健康寿命延伸に貢献する』事が目的として採択され、小チーム活動を中心とする活動を続けております。



心不全高血圧プロジェクト

## 2) プロジェクトチームメンバー

(チームは役職を削除した関わりとするため“さん”で表記)

プロジェクトチーム総責任者	：一番ヶ瀬さん
プロジェクトチーム監督	：神島さん
患者教育チーム	：齊藤さん
職員教育チーム	：久木さん、轟さん、三浦さん、中谷さん
疾患管理チーム	：島山さん
地域連携チーム	：山下さん
情報発信チーム	：森さん
プロジェクト編集者	：薄田さん

心不全高血圧プロジェクト本会議：渡辺専務・副理事長、槻館副院長

3) 取り組み実績（2023年4月1日～2024年3月31日）

プロジェクト第一段階：チーム活動を実施する。

**患者利用者教育チーム：教育動画教育資材作成、URとの協働開催イベント実施**

**職員教育チーム：全職員教育視聴管理システム構築、BLS研修実施**

**疾患管理チーム：OSEHFの仕組み導入、**

**地域連携チーム：介護施設、寝屋川保健所との連携構築**

**情報発信チーム：X（旧Twitterアカウント運用実施）**

公式ロゴ・キャラクターの運用開始

4) 教育・研修・教育

○心不全療養指導士を輩出：7名

○OSHEFの仕組みの講習会：2023/12/17 北野病院 中根 英策先生

○寝屋川市糖尿病性腎症重症化予防の会：栄養科 新谷科長

5) 次年度の課題・目標

プロジェクトの第二段階に移行する。

【目標】

・寝屋川市 特定健診受診率 33.6%（大阪府：令和3年 29.2%）

1年後の受診率を5%上げる → 2年後に8%上昇させる。

・OSHEFの仕組みを利用した、早期受診、早期退院の仕組み構築

心不全教育入院：6名/月

協仁会教育システム参加施設数 4施設

協仁会 心不全・高血圧プロジェクトチームより

健康寿命延伸  
に  
貢献します

